



# InstallShield 2015 リリースノート

(オリジナル リリース 2015 年 6 月、SP2 を含むアップデート リリース 2017 年 7 月)

|  |           |
|--|-----------|
| はじめに .....   | 3         |
| <b>SP2 に含まれる変更 .....</b>   | <b>3</b>  |
| FlexNet Code Aware との統合 .....  | 3         |
| バグ修正 SP2.....  | 9         |
| <b>SP1 に含まれる変更 .....</b>   | <b>10</b> |
| Windows 10 のサポート .....   | 10        |
| Microsoft Visual Studio 2015 のサポート .....   | 10        |
| Microsoft App-V 5.1 のサポート.....   | 10        |
| 新しい App-V 5.1 用 InstallShield 前提条件 .....   | 10        |
| App-V アシスタントの [オペレーティング システム] オプションについて、App-V 5.x バージョン用に<br>Windows 10 を追加.....           | 10        |
| Microsoft Visual C++ 2015 および .NET Framework 4.6 用の新しい InstallShield 前提条件 .....            | 11        |
| DialogSetInfo 関数の新しい定数.....  | 11        |
| アーキテクチャの検証を無効化するオプションの追加.....  | 11        |
| バグ修正 SP1.....  | 11        |
| <b>新しい機能.....</b>  | <b>12</b> |
| Windows 10 ベース システムのサポート.....  | 12        |
| Windows 10 をターゲットにする .....   | 12        |
| Windows 10 の InstallScript 言語サポート.....   | 13        |
| デジタル署名の強化機能 .....  | 13        |
| SHA-256 デジタル証明書のサポート .....   | 13        |
| 証明書を参照するときに証明書ストアを使用できる機能.....   | 14        |
| UAC ダイアログ ボックスにプログラム名を指定できる機能 .....  | 14        |
| デジタル署名情報を指定できるオートメーション インターフェイス サポート.....  | 15        |
| 64 ビット開発システム上で、ソース マシンのレジストリの 32 ビットおよび 64 ビット領域の両方を表示できる<br>機能.....                       | 15        |
| アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトで形式化された式を埋め込んで実行時に解決で<br>きる機能.....                     | 16        |
| 共通パッケージを異なるアドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストール間で共有できる機能.....                              | 17        |
| アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのリリースで、製品名、製品バージョン、およ<br>びスイート GUID をオーバーライドできる機能..... | 17        |
| アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI プロジェクトのリリースで、パス変数の値をオーバーライド                                  |           |

|  |           |
|--|-----------|
| できる機能.....   | 18        |
| アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのオートメーション インターフェイス サポート.....                                   | 18        |
| 新しい Microsoft Visual C++ 2013、.NET Framework 4.5.2 その他用の InstallShield 前提条件.....                   | 19        |
| Internet Explorer 10 および 11 用の新しい定義済みシステム検索.....   | 20        |
| Microsoft App-V 5.0 SP3 の仮想アプリケーションを作成するためのサポート、追加の App-V パッケージの強化機能.....                          | 20        |
| 新しい App-V 5.0 SP3 用 InstallShield 前提条件.....  | 20        |
| プライマリ アプリケーション ディレクトリの代わりに、仮想ファイル システムにファイルをマップできる機能.....  | 20        |
| 仮想ファイル システムに完全な書き込みアクセス権を持つ App-V 5.x パッケージを作成できる機能.....   | 21        |
| App-V5.x の詳細 COM 分離の設定を構成できる機能.....  | 21        |
| <b>強化機能.....</b>   | <b>21</b> |
| [ファイルとフォルダー] ビューのパフォーマンス強化.....  | 22        |
| 機能ごとに [ファイルとフォルダー] ビューのアイテムをフィルターできる機能.....  | 22        |
| 基本の MSI インストールおよび InstallScript MSI インストールにおける PowerShell スクリプトからインストーラー セッションにアクセスできる機能.....      | 23        |
| トランスフォーム プロジェクトおよび MSI データベースでメジャー アップグレードを構成できる機能.....  | 23        |
| アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI ログ ファイルへのパスワードの書き込みを防ぐ ISHiddenProperties プロパティの強化.....              | 23        |
| アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストールのウィザード インターフェイスで使用されているアンパサンドの解釈に関する強化.....                    | 24        |
| アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストールにおけるファイル関連タイプの条件のチェックで複数のターゲット システム パスを検索できる機能強化.....          | 25        |
| アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトで、特定の種類のファイル関連条件のチェックと共に InstallShield 前提条件をインポートする際の機能強化..... | 25        |
| オートメーション インターフェイスを使ってプロジェクトをアップグレードできる機能.....  | 26        |
| オートメーション インターフェイスを使って、リリースに仮想マシン構成を選択できる機能.....  | 26        |
| ISICE 11 に追加された強化機能.....   | 27        |
| 基本の MSI、DIM、およびマージ モジュールプロジェクトで強化された [ダイアログ] ビュー: 各コントロールのすべての “動作” 設定を単一のグリッドで表示.....             | 27        |
| 強化されたフォルダー ビューで、現在のプロジェクトに含まれる各アイテムの合計数を表示.....  | 28        |
| 未使用のコンポーネントを自動的に削除する、新しいマシン全体の設定.....  | 28        |
| Binary テーブルのファイルを使用するカスタム アクションを削除する強化された機能.....   | 28        |
| セットアップランチャーに同じカスタム アイコン ファイルを使用する同時実行ビルドの生成における強化機能.....   | 29        |
| 新しいスタンドアロン ビルド レジストリ エントリが InstallShield バージョン情報を表示.....   | 29        |
| <b>重要な情報.....</b>  | <b>30</b> |
| InstallShield の評価.....   | 30        |
| InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する.....                                | 30        |
| InstallShield の複数エディションをインストールする.....  | 30        |
| InstallShield の複数バージョンをインストールする.....   | 30        |
| <b>プロジェクトのアップグレードに関するアラート.....</b>   | <b>31</b> |
| InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報.....   | 31        |
| ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更.....   | 31        |
| Visual Studio のサポートされているバージョン リストに関する変更.....   | 31        |
| .spc および .pvk ファイルを使ったデジタル署名サポートの削除.....   | 32        |
| デジタル署名サポートにおけるオートメーション インターフェイスの変更.....  | 32        |
| InstallShield インストールからの SignTool.exe および Signcode.exe の削除.....                                     | 32        |
| 基本の MSI インストールおよび InstallScript MSI インストールにおける PowerShell サポートの変更.....                             | 33        |
| アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトにおける .msi パッケージのデフォルトの対象条件の変更点.....                            | 33        |
| アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストールのウィザード インターフェイスで使用されているアンパサンドの解釈に関する変更.....                    | 33        |

|  |           |
|--|-----------|
| 基本の MSI、InstallScript、および InstallScript MSI インストールで、セットアップの初期化および InstallShield 前提条件の待機中ダイアログでアンパサンドの解釈が変更されました。 | 34        |
| Trialware サポート   | 35        |
| オートメーション インターフェイスの変更   | 35        |
| <b>バグ修正</b>  | <b>35</b> |
| InstallShield 2015 SP2   | 36        |
| InstallShield 2015 SP1   | 38        |
| InstallShield 2015   | 42        |
| <b>既知の問題</b>   | <b>60</b> |
| <b>システム要件</b>  | <b>61</b> |
| InstallShield を実行するシステムの要件   | 61        |
| ターゲット システムの要件  | 63        |
| <b>法的情報</b>  | <b>64</b> |

## はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer または InstallScript ベースのインストール、および Microsoft App-V パッケージをオーサリングできる業界標準ツールです。InstallShield 2015 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能と強化内容が提供されています。

InstallShield 2015 には、Windows 10 および Visual Studio 2015 のサポートが含まれています。

## SP2 に含まれる変更

### FlexNet Code Aware との統合

InstallShield には、今回より FlexNet Code Aware との統合が含まれています。FlexNet Code Aware は、製品のセキュリティおよび知的財産 (IP) コンプライアンス リスクを迅速にスキャンする、自動オープンソース リスク評価およびパッケージ検出ソリューションです。

FlexNet Code Aware の現在のリリースでは、次のファイル分析がサポートされています：

- Java パッケージ
- Node パッケージ
- Nuget パッケージ
- RPM パッケージ
- Ruby パッケージ
- EXE & DLL ファイル

セキュリティ脆弱性は、[National Vulnerability Database \(NVD\)](#) と照合されます。

## FlexNet Code Aware を実行する

FlexNet Code には InstallShield とは別のライセンスが必要です。トライアル / 評価版もあります。詳細については、フレクセラ・ソフトウェア Web サイトの [\[FlexNet Code Aware 製品\] ページ](#) を参照してください。

InstallShield 内部から FlexNet Code Aware を実行するには、InstallShield の **[プロジェクト]** メニューから **[FlexNet Code Aware を使ってプロジェクトをスキャン]** をクリックします。このメニュー オプションは、InstallShield プロジェクトが現在開いていない場合は無効です。FlexNet Code Aware アイコン  も、InstallShield 標準ツールバーに表示されます。

FlexNet Code Aware がプロジェクトのスキャンを完了したとき、概要にはスキャン済みファイルの数、オープン ソース パッケージ、ならびに検出された脆弱性の数が表示されます。FlexNet Code Aware のフル ライセンス版では、**[View report (レポートの表示)]** ボタンが使用できます。このレポートで提供される詳細については、「[FlexNet Code Aware レポートの読み方](#)」を参照してください。



FLEXERA SOFTWARE®  
FlexNet® Code Aware™

View Report

Click "View Report" to close Code Aware and open the report in a browser.

| Files  | Packages  | Vulnerabilities  |
|--|---|--|
| <br>Files Scanned<br><b>2,532</b> | <br>Packages Found<br><b>144</b> | <br>Vulnerabilities Found<br><b>167</b> |

[View Report](#) [Finish](#)

## FlexNet Code Aware レポートの読み方



**メモ**・FlexNet Code Aware レポートは、トライアル/評価版モードでは使用できません。FlexNet Code Aware のフル ライセンス版が必要です。

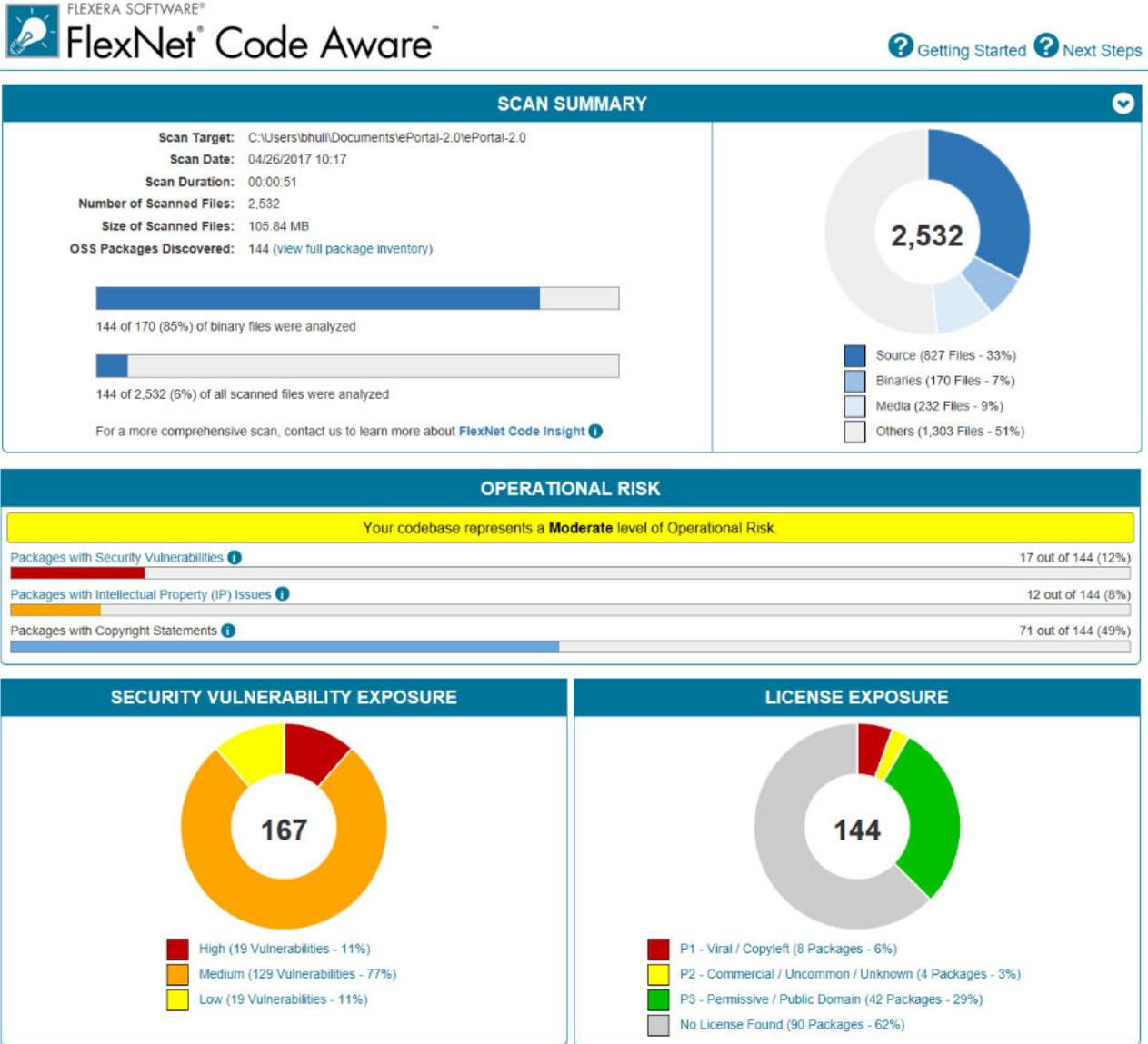
FlexNet Code Aware レポートを参照するためには、FlexNet Code Aware がプロジェクトをスキャンした後に表示される概要ダイアログで **[View report (レポートの表示)]** をクリックします。

FlexNet Code Aware レポートは、いくつかのセクションから構成されています：

- ・ 最初の **[Summary (概要)]** ビューには、**Scan Summary (スキャン概要)**、**Operational Risk (運用リスク) 評価**、**Security Vulnerability Exposure (セキュリティ脆弱性の公開)**、および **License Exposure (ライセンスの公開)** が提示されます。
  - ・ **[Scan Summary (スキャン概要)]** セクションは、ファイル タイプの内訳、分析済みファイルの割合、および検出数を含む、スキャン済みのコードベースについての詳細が表示されます。
  - ・ **[Operational Risk (運用リスク)]** セクションには、パッケージと知的財産 (IP) との問題、およびパッケージとセキュリティ脆弱性の組み合わせに基づいた合成リスク評価が表示されます。
  - ・ **[Security Vulnerability Exposure (セキュリティ脆弱性の公開)]** および **[License Exposure (ライセンスの公開)]** セクションには、識別された問題の種類とカテゴリーの内訳が表示されます。
- ・ **[Package Inventory (パッケージ インベントリ)]** ビューは **[Scan Summary (スキャン概要)]** セクションで **[view full package inventory (フル パッケージ インベントリの表示)]** をクリックすると表示され、検出されたオープンソースおよびサードパーティ パッケージおよび関連ライセンス、セキュリティ脆弱性、依存関係、ならびに検出された著作権ステートメントの完全リストを表示します。

**[Package Inventory (パッケージ インベントリ)]** ビューには、ターゲットのクエリを実行して、一覧を様々なパッケージの種類に絞り込むためのフィルターが用意されています。

次の図は、サンプル FlexNet Code Aware レポートの最初の [Summary (概要)] ビューを表示します。



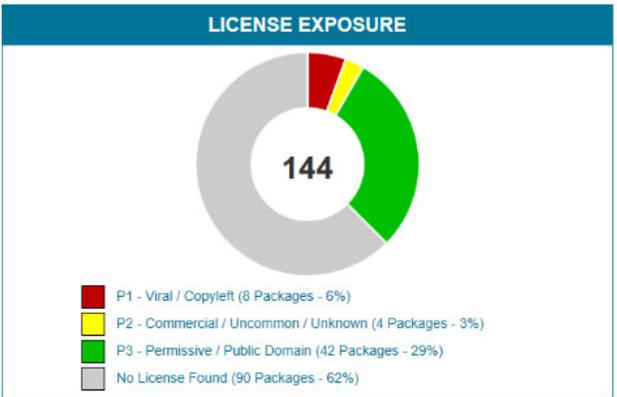
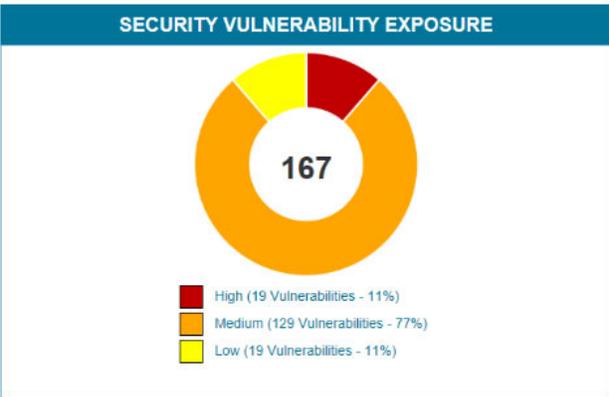
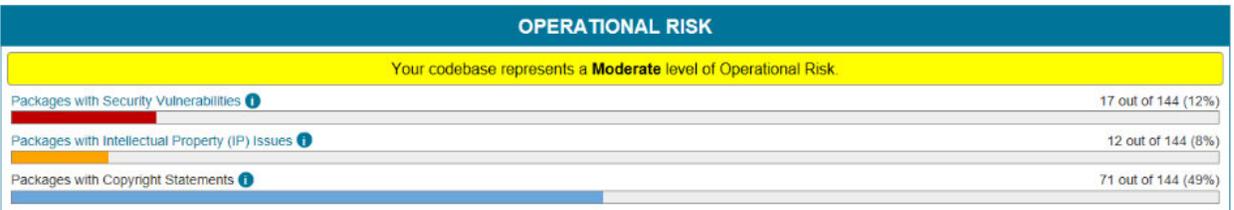
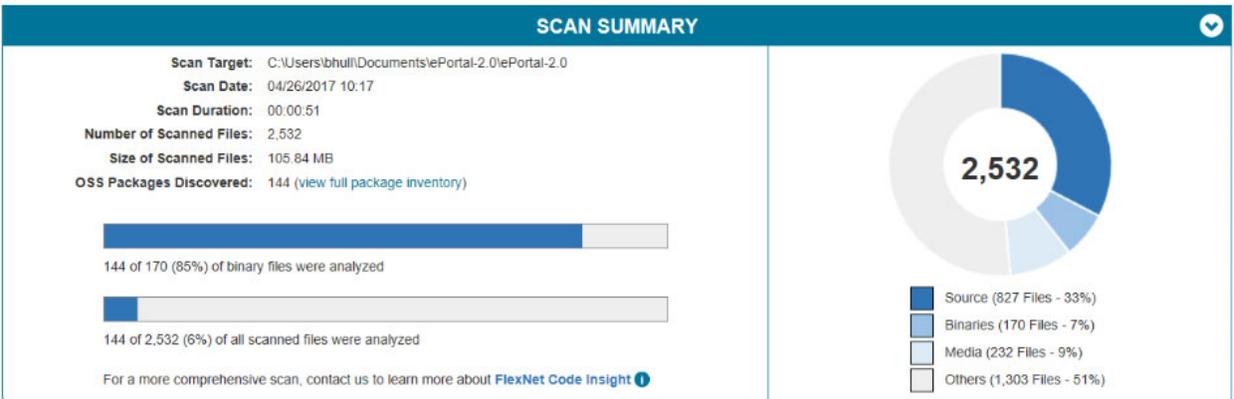


図-1: FlexNet Code Aware [Summary (概要)] ビュー初期画面

次の図は、サンプル FlexNet Code Aware レポートの [Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビューを表示します。

**Search**

Enter keyword...

Enter CVE (CVE-XXXX-XXXX)...

Enter copyright holder

**Security Vulnerabilities**

High Severity (CVSS 7.0 - 10.0)

Medium Severity (CVSS 4.0 - 6.9)

Low Severity (CVSS 0.0 - 3.9)

**Detected Licenses**

P1 - Viral / Copyleft

P2 - Commercial / Uncommon / Unknown

P3 - Permissive / Public Domain

No License Found

Apply Or Criteria Filter Reset

Licenses Legend: P1 - Viral / Copyleft P2 - Commercial / Uncommon / Unknown P3 - Permissive / Public Domain  
 Vulnerabilities Legend: High Severity (CVSS 7.0 - 10.0) Medium Severity (CVSS 4.0 - 6.9) Low Severity (CVSS 0.0 - 3.9)

Browsing 1-10 of 144 Packages

| Package                        | License          | Vendor           | Vulnerabilities            | # Copyrights |
|--------------------------------|------------------|------------------|----------------------------|--------------|
| mysql_connector_c 5.1.7        | No License Found | Mysql            | 94 High 5 Medium 71 Low 18 | None Found   |
| struts 1.2.7                   | Apache-2.0       | Apache           | 7 High 2 Medium 5 Low 0    | None Found   |
| spring_framework 3.0.5.RELEASE | Apache-2.0       | Pivotal_software | 6 High 1 Medium 5 Low 0    | None Found   |
| spring_framework 3.0.5.RELEASE | Apache-2.0       | Springsource     | 6 High 1 Medium 5 Low 0    | None Found   |
| spring_framework 3.0.5.RELEASE | Apache-2.0       | Pivotal_software | 6 High 1 Medium 5 Low 0    | None Found   |
| spring_framework 3.0.5.RELEASE | Apache-2.0       | Pivotal_software | 6 High 1 Medium 5 Low 0    | None Found   |
| spring_framework 3.0.5.RELEASE | Apache-2.0       | Pivotal_software | 6 High 1 Medium 5 Low 0    | None Found   |
| spring_framework 3.0.5.RELEASE | Apache-2.0       | Pivotal_software | 6 High 1 Medium 5 Low 0    | None Found   |
| spring_framework 3.0.5.RELEASE | Apache-2.0       | Pivotal_software | 6 High 1 Medium 5 Low 0    | None Found   |
| spring_framework 3.0.5.RELEASE | Apache-2.0       | Springsource     | 6 High 1 Medium 5 Low 0    | None Found   |

10 1 2 3 4 5 ... 15

図 -2: FlexNet Code Aware [Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビュー

## パッケージの詳細を確認する

[Package Inventory (パッケージ インベントリ)] レポート ページの [Vulnerabilities (脆弱性)] 列にある脆弱性カウントをクリックして、各パッケージの詳細を確認します：

**Vulnerabilities**

7 High 2 Medium 5 Low 0 Critical

6 High 1 Medium 5 Low 0 Critical

パッケージ インベントリ レポートの一部が含まれた [Vulnerabilities detail (脆弱性の詳細)] が表示されます:

### struts 1.2.7 ✕

|                        |   |
|------------------------|---|
| <b>Name</b>            | struts 1.2.7  |
| <b>Version</b>         | 1.2.7   |
| <b>License</b>         |  Apache-2.0  |
| <b>Vulnerabilities</b> |  7    2    5    0   |
| <b>Description</b>     | The core of the Struts framework is a flexible control layer based on standard technologies like Java Servlets, JavaBeans, ResourceBundle, and Extensible Markup Language (XML), as well as various Jakarta Commons packages. Struts encourages application architectures based on the Model 2 approach, a variation of the classic Model-View-Controller (MVC) design paradigm. Struts provides its own Controller component and integrates with other technologies to provide the Model and the View. For the Model, Struts can interact with any standard data access technology, including Enterprise Java Beans, JDBC, and Object Relational Bridge. For the View, Struts works well with JavaServer Pages, including JSTL and JSF, as well as Velocity Templates, XSLT, and other presentation systems. The Struts framework provides the invisible underpinnings every professional web application needs to survive. Struts helps you create an extensible development environment for your application, based on published standards and proven design patterns. |
| <b>Path</b>            | C:\Users\bhull\Documents\Portal-2.0\Portal-2.0\extras\struts-1.2.7\contrib\struts-el\lib\struts.jar<br>C:\Users\bhull\Documents\Portal-2.0\Portal-2.0\extras\struts-1.2.7\lib\struts.jar  |
| <b>Evidence Type</b>   | pom.xml   |
| <b>Maven GAV</b>       | struts:struts:1.2.7   |
| <b>Vendor</b>          | Apache  |
| <b>Copyrights</b>      | None Found  |

#### Security Vulnerabilities ▼

**CVE ID:** [CVE-2006-1547](#)

**Severity:**  High

**CVSS Score:** 7.8

## バグ修正 SP2

InstallShield 2015 SP1 で解決された問題については、「[InstallShield 2015 SP2](#)」を参照してください。

# SP1 に含まれる変更

## Windows 10 のサポート

InstallShield は、Windows 10 をサポートします。

## Microsoft Visual Studio 2015 のサポート

InstallShield は、Visual Studio 2015 をサポートします。このバージョンの Visual Studio 内部から InstallShield プロジェクトを作成できます。

## Microsoft App-V 5.1 のサポート

InstallShield の Microsoft App-V アシスタントには、Microsoft App-V 5.1 クライアント上で実行できる仮想アプリケーションを作成するためのサポートが含まれています。

## 新しい App-V 5.1 用 InstallShield 前提条件

InstallShield には、生成された App-V 5.x パッケージに setup.exe を含めるときに使用できる、新しい InstallShield 前提条件が含まれています。InstallShield 前提条件をリリースに含める必要がある場合、Setup.exe セットアップランチャーが必要になることに注意してください。

- Microsoft App-V 5.1 Desktop Client

この InstallShield 前提条件用の再配布可能ファイルは Microsoft から入手しなくてはならないため、InstallShield 内部からダウンロードすることはできません。Microsoft から再配布可能ファイルを手にした後、InstallShield 前提条件エディターで前提条件を編集するときに表示される場所に配置してください。必要な前提条件についての詳細は、<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/mt346482.aspx> を参照してください。

## App-V アシスタントの [オペレーティング システム] オプションについて、App-V 5.x バージョン用に Windows 10 を追加

App-V 5.1 より、Windows 10 32 ビット版および 64 ビット版のオペレーティング システムがサポートされています。これに伴い、Microsoft App-V アシスタントの [パッケージ情報] ページで、App-V 5.x が選択されている際に選択可能なオペレーティングシステムとして次が追加されました：

- Windows 10 (32 ビット版)
- Windows 10 (64 ビット版)

# Microsoft Visual C++ 2015 および .NET Framework 4.6 用の新しい InstallShield 前提条件

InstallShield には、アドバンスド UI、基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI、およびスイート / アドバンスド UI プロジェクトに追加可能な新しい前提条件が含まれています：

- Microsoft Visual C++ 2015 再配布可能パッケージ (x86)
- Microsoft Visual C++ 2015 再配布可能パッケージ (x64)
- Microsoft .NET Framework 4.6 Full
- Microsoft .NET Framework 4.6 Web

これらの前提条件は、サポートされているターゲット システムに適切なテクノロジーをインストールします。

## DialogSetInfo 関数の新しい定数

InstallScript 関数 DialogSetInfo の nInfoType パラメーターに新しい定数が使用できます：

**DLG\_INFO\_ALTIMAGE\_HIDPI**— この定数は、ダイアログで高 DPI イメージを指定します。高 DPI イメージは BMP、GIF、JPEG、PNG、および TIFFなどをサポートします。透明化が必要な場合、それをサポートする PNG などのイメージ タイプを使い、ダイアログ内で szInfoString が表示するイメージの名前（オプションでパスを含むことが可能）を指定します。このパラメーターは、ダイアログの左側にある標準インストール イメージを表示する ダイアログすべてに適用されます。

DLG\_INFO\_ALTIMAGE\_HIDPI が nInfoType で渡される場合、次のパラメーター値が必要です：

- szInfoString— 表示するイメージ ファイルの名前。オプションでパスを含めることもできます。ファイルが指定されなかった場合、SUPPORTDIR に存在するものと見なされます。ファイルが存在しない場合は、DialogSetInfo が ISERR\_FILE\_NOT\_FOUND を返します。
- nParameter— DPI 拡大 / 縮小率。たとえば、200% 拡大する場合 200、150% の場合 150 など。サポートされている最小縮小値は 25 です。この値に 0 が渡された場合、イメージは何も表示されません。If DLG\_INFO\_ALTIMAGE\_REVERT\_IMAGE が渡されると、以前に使用されたイメージが表示されます。

この関数は、InstallScript プロジェクトおよび InstallScript MSI プロジェクトの InstallScript イベントで使用できます。

## アーキテクチャの検証を無効化するオプションの追加

[リリース] エクスプローラーの [アーキテクチャの検証] オプションに [なし] オプションが追加され、ビルド時にアーキテクチャの検証をバイパスすることを指定できるようになりました。

## バグ修正 SP1

InstallShield 2015 SP1 で解決された問題については、「[InstallShield 2015 SP1](#)」を参照してください。

# 新しい機能

InstallShield 2015 には、以下のような新しい機能が搭載されています。

- [Windows 10 ベース システムのサポート](#)
- [デジタル署名の強化機能](#)
- [64 ビット開発システム上で、ソース マシンのレジストリの 32 ビットおよび 64 ビット領域の両方を表示できる機能](#)
- [アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトで形式化された式を埋め込んで実行時に解決できる機能](#)
- [共通パッケージを異なるアドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストール間で共有できる機能](#)
- [アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのリリースで、製品名、製品バージョン、およびスイート GUID をオーバーライドできる機能](#)
- [アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI プロジェクトのリリースで、パス変数の値をオーバーライドできる機能](#)
- [アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのオートメーション インターフェイス サポート](#)
- [新しい Microsoft Visual C++ 2013、.NET Framework 4.5.2 その他用の InstallShield 前提条件](#)
- [Internet Explorer 10 および 11 用の新しい定義済みシステム検索](#)
- [Microsoft App-V 5.0 SP3 の仮想アプリケーションを作成するためのサポート、追加の App-V パッケージの強化機能](#)

## Windows 10 ベース システムのサポート

InstallShield は、Windows 10 をサポートします。

### Windows 10 をターゲットにする

Windows 10 が搭載されているシステム上では、Windows Installer プロパティ VersionNT および VersionNT64 が 603 を示します。これは、もともと Windows 8.1 のバージョン番号として使用されたものです。従って、Windows 10 をターゲットに特定して .msi パッケージの条件を作成することは不可能です。

Windows Installer 5.0 および Windows 7 より、.msi パッケージの DLL アクションには shim が適用されるため、オペレーティング システム バージョンの取得が阻止されます。API の GetVersion、GetVersionEx、および RtlGetVersion は、もともと Windows Vista のバージョン番号である 6.0.6000 を返します。従って、DLL カスタム アクション、または InstallScript カスタム アクション (DLL として実装される) から実際の Windows のバージョン番号を取得することはできません。

前述の Windows Installer 動作のため、.msi パッケージが実行中のバージョンを検出することは容易ではありません。ターゲットシステムの OS 要件を指定できる領域、たとえば基本の MSI および InstallScript MSI プロジェクトでは、プロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページで、新しい実行時の動作を反映するように、[Windows 8.1] オプションの名前が「**Windows 8.1** または **Windows 10**」に変更されました。

InstallScript、アドバンスド UI、およびスイート / アドバンスド UI プロジェクトでは、ターゲットシステム上に存在する Windows のバージョン (Windows 10 を含む) を正しく検出できる機能が提供されています。したがって、インストールが Windows 10 をターゲットとする、または除外する必要がある場合、これらのプロジェクトの種類を使って、実際のターゲットシステム プラットフォームに基づいて .msi パッケージを実行する条件を作成できます。

Windows 10 にインストール可能な InstallShield 前提条件は、必要に応じて、これらのシステムにインストールされるように更新されています。以前これらのシステムでは、前提条件がデフォルトで実行されない場合があります。

## Windows 10 の InstallScript 言語サポート

次の構造メンバーと定義済み定数が InstallScript 言語に追加されました：

- `SYSINFO.WINNT.bWin10`—新しい `SYSINFO` 構造メンバーです。オペレーティング システムが Windows 10 の場合、この値は `TRUE` です。(これは、InstallScript イベント ドリブン型コードに適用し、カスタム アクションには適用しません。)
- `ISOSL_WIN10-FeatureFilterOS` 関数と `SYSINFO` 構造変数と共に使用できる新しい定義済み定数です。これは、ターゲット システムが Windows 10 を実行中であることを示します。

## デジタル署名の強化機能

InstallShield には、ビルド時にインストールおよびファイルにデジタル署名を行うための、いくつかの強化機能が含まれています。

## SHA-256 デジタル証明書のサポート

InstallShield では、インストールおよびファイルをビルド時に署名する際、SHA-256 ハッシュ アルゴリズムを使ったデジタル証明書を使用できます。

SHA-1 はセキュリティの脆弱性があるため、SHA-256 の使用が推奨されます。Microsoft は、Windows では 2016 年 1 月以降に SHA-1 証明書を使って署名およびタイムスタンプが追加されているアイテムを信頼しないことを発表しました。さらに、証明書を発行する組織である証明機関では、SHA-1 証明書が段階的に廃止されます。したがって、InstallShield プロジェクトに含まれる任意の SHA-1 証明書は、SHA-256 証明書と置き換えることが推奨されます。最新情報および特定の詳細については、証明機関にお問い合わせください。

InstallShield でリリースに署名するための SHA-1 証明書を SHA-256 証明書に置き換えるには、[リリース] ビューの [署名] タブを使って、現在の証明書への参照を SHA-256 証明書と置き換えます。

プロジェクトで、SHA-256 証明書を使った署名が構成されている場合、InstallShield はビルド時に署名を行うファイルの署名に SHA-256 ハッシュを使用します。プロジェクトで SHA-1 証明書を使った署名が構成されたままになっている場合、InstallShield は SHA-1 ハッシュを使用します。また、SHA-1 証明書を使用すると、今回より SHA-1 の使用についてアラートするビルド警告 -7346 が発生します。

InstallShield の以前のバージョンでは、SHA-1 または SHA-256 証明書のいずれかを使って署名が行なわれる際、ファイルの署名に SHA-1 ハッシュが使用されました。

## 証明書参照するときに証明書ストアを使用できる機能

ファイルおよびインストールの署名に使用するデジタル署名情報を指定するとき、InstallShield では今回より、使用する証明書を含む証明書ストアを参照することができます。このサポートは、マシン上の .pfx 証明書ファイルを指定する方法の代替として提供されています。

証明書ストアまたは .pfx 証明書を扱うかどうかを指定するには、[リリース]ビューの[署名]タブにある“デジタル証明書ファイル”設定を使用します。この設定で省略記号ボタン(...)をクリックすると、新しい[証明書の選択]ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスを使って、ストア名(Personal、Trusted Root Certification Authorities、Enterprise Trust、Intermediate Certification Authorities)、ストアの場所(ユーザー、マシン)、および特定の証明書を識別するためのサブジェクトといった情報を指定することができます。別の方法として、このダイアログボックスで使用する .pfx ファイルの名前とパスを指定することもできます。

ストアにパスワード付きでインポートされた証明書をプロジェクトで使用するよう構成すると、ビルド時、InstallShield がプロジェクトのファイルに署名を行うときに、Windows がパスワードをプロンプトします。Windows が使用する強力なキー保護のため、InstallShield がパスワードを暗号化サービスプロバイダーに提供することはできません。

証明書ストアを、パッチおよび QuickPatch パッケージの署名に使用することもできます。

- パッチの証明書ストアまたは .pfx 証明書情報を指定するには、[パッチのデザイン]ビューでパッチの構成の[デジタル署名]タブを使用します。
- QuickPatch パッケージで証明書ストアまたは .pfx 証明書情報を指定するには、QuickPatch プロジェクトで[一般情報]ビューの[ビルドの設定]領域を使用します。この領域には、新しいサポートを含む[デジタル署名]タブがあります。

さらに、ビルド済みの InstallScript リリースの署名に使用できるコマンドライン ツール iSign.exe が更新され、証明書ストアにある証明書を使用できるようになりました。

InstallShield では、今回より .spc および .pvk ファイルを使った署名がサポートされていません。

## UAC ダイアログボックスにプログラム名を指定できる機能

[リリース]ビューの[署名]タブには、“署名の説明”設定があります。この設定を使って、ビルド時に InstallShield が署名を行なう Setup.exe ファイル、.msi ファイル、その他のインストール ファイルの UAC ダイアログボックスで“プログラム名:”ラベルの右側に表示するテキストを指定します。UAC ダイアログボックスは、エンドユーザーが署名されたファイルを起動したとき、昇格された権限が必要な場合に開きます。

“署名の説明”設定を空白のままに残すと、InstallShield は UAC ダイアログボックスのテキストとして、ファイル名を拡張子なしで使用します。

.pfx ファイルまたは証明書ストアにある証明書を使って、メディア ヘッダー ファイルにデジタル署名できる機能

InstallShield では今回より、.pfx ファイルを使って、メディア ヘッダー ファイル (.hdr ファイル) に署名することができます。.hdr ファイルは、InstallScript プロジェクトの One-Click Install インストールに使用されます。別の方法として、証明書ストア内の証明書を使って、メディア ヘッダー ファイルに署名することもできます。

以前は、.pfx ファイルの代わりに .spc および .pvk ファイルを使って署名しなくてはなりませんでした。

## デジタル署名情報を指定できるオートメーション インターフェイス サポート

オートメーション インターフェイスには、.pfx ファイルおよび署名ストア情報の指定がサポートが含まれています。また、署名の説明を指定することもできます。

基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI、InstallScript オブジェクト、およびマージ モジュール プロジェクトには、ISWiReleases オブジェクトに 2 つの読み書き文字列プロパティが含まれています。アドバンスド UI およびスイート / アドバンスド UI プロジェクトの ISWiSuiteReleases オブジェクトは、これらの同じプロパティを含みます。

- `DigitalCertificateInfo`— このプロパティは、マシン上の .pfx ファイルへのパスまたは証明書ストアの詳細を示す文字列を取得または設定します。
- `SignatureDescription`— このプロパティは、署名の説明を取得または設定します。

この機能によって、IOA-000066347、IOA-000080318、IOC-000089619、および IOJ-1700927 が解決されます。

## 64 ビット開発システム上で、ソース マシンのレジストリの 32 ビットおよび 64 ビット領域の両方を表示できる機能

InstallShield を 64 ビット開発システム上で使用する場合、InstallShield が表示する [レジストリ] ビューは、使用中のマシンのレジストリの 32 ビットおよび 64 ビット領域の両方を表示します：

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node`

このサポートによって、このビューのインストール先ペインの適切な領域にソース領域からのエントリをドラッグ アンド ドロップできるようになるため、64 ビット マシン上でのインストールの開発が容易になります。

以前、64 ビット開発システム上で InstallShield を使用した場合、InstallShield の [レジストリ] ビューのソース ペインにはレジストリの `HKLM\Software` 部分にある 64 ビットデータが表示されませんでした。さらに、ソース ペインには、マシンの `HKLM\Software\Wow6432Node` 領域の 32 ビットデータが `HKLM\Software` 領域に表示されました。

インストールがレジストリ データを、32 ビット領域にリダイレクトせずに、64 ビット ターゲット システム上のレジストリの 64 ビット領域にインストールする場合、レジストリ データを 64 ビットとしてマークされたコンポーネントに配置します。[レジストリ] ビューのソースペインから 64 ビット データを、ビュー内のインストール先ペインにドラッグするだけでは、そのコンポーネントが 64 ビットであるとマークされません。

この機能は、基本の MSI、DIM、InstallScript、InstallScript MSI、マージ モジュール、MSI データベース、MSM データベース、およびトランスフォーム プロジェクト タイプで使用できます。

## アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトで形式化された式を埋め込んで実行時に解決できる機能

アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトの様々な領域では、ファイル、レジストリ エントリ、オペレーティング システム、その他の詳細情報をターゲット システムで照会するオブジェクト式を埋め込むことができます。これによって、ターゲット システム固有の条件に基づいて、実行時にアドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI の多くの設定を動的に構成することができます。オブジェクト式には、この規則を使用します：

```
[@Object(Parameters, ...).Property(Parameters, ...)]
```

各オブジェクト式には、オブジェクト固有プロパティの集まりである、オブジェクトへの参照が含まれています。オブジェクトとプロパティにはパラメーターを含めることができます。

たとえば、次の Platform オブジェクト式は、アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI インストールが実行中のマシンのアーキテクチャ (x86、x64、IA64、ARM、または不明) を取得します：

```
[@Platform.Architecture]
```

次の Registry オブジェクト式は、HKLM¥Software¥My Company Name¥My Product Name レジストリ キーの RegisteredOwner 値のデータを取得します：

```
[@Registry(HKLM¥Software¥[COMPANY]¥[PRODUCT], true).KeyValue(RegisteredOwner)]
```

プロパティ式その他のオブジェクト式のような、別の形式化された式内にオブジェクト式を埋め込むことができます。次の式では、Registry オブジェクト式が File オブジェクト式にパラメーターの一部として埋め込まれています。

```
[@File([@Registry(HKLM¥Software¥MyProduct).KeyValue(MyProductPath)]¥MyProduct.exe).Version]
```

MyProduct.exe ファイルが MyProductPath 値データに指定された場所にあるとき、File オブジェクト式はファイルのバージョンを返します。ファイルがその場所に見つからなかった場合、またはレジストリ値が存在しなかった場合、File オブジェクト式は空白文字列を返します。

InstallShield ではまた、アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI インストール内のパッケージにコマンドラインを使って、文字列の一部としてリテラル角括弧を渡すこともできます。たとえば、`[¥[]Text[¥]]` のようなコマンドラインは実行時に `[Text]` として解決され、角括弧と共にパッケージに渡されます。以前、角括弧で囲まれた文字列はプロパティとして扱われたため、インストールが実行時に解決しようとした。唯一のワークアラウンドは、実行時に角括弧を含むプロパティ値に解決する形式化されたプロパティ式 (たとえば、`[PropertyForSquareBracketString]`) を使う方法でした。

この機能によって、IOA-000066232、IOA-000078276、IOA-000078602、および IOJ-1700875 が解決されます。

## 共通パッケージを異なるアドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストール間で共有できる機能

アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI インストールのパッケージを構成するとき、今回より、これを共有とマークすることができます。共有パッケージ機能を使って、2 以上のアドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI インストールが 1 つのパッケージを共有している場合に、アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI 製品のすべてが削除されるまで、ターゲットシステムにそのパッケージが保持されるようにします。

アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI プロジェクトの [パッケージ] ビューで選択されているパッケージをマークするには、新しい “共有” 設定に [はい] を選択します。さらに、パッケージを共有するすべてのアドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトで必ず同じパッケージ GUID を使用してください。[パッケージ] ビューの “パッケージ GUID” 設定を使って、パッケージの GUID を確認および変更することができます。

このビルトイン共有サポートが有効になる前には、様々な状況下で予期しない結果が発生する可能性があります。たとえば、一部の状況下で、ターゲットシステム上に 2 つの異なるアドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI インストールが共有パッケージをインストールした場合、1 つだけがアンインストールされたとき、共有パッケージも削除されました。共有パッケージが不足すると、残りのアドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI 製品が使用不可能となる可能性があります。別の状況下では、アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI 製品が無いのにもかかわらず、共有パッケージが誤ってターゲットシステムに残りました。

以前、一部の状況下で、このビルトイン共有サポートが使用できる前は、ターゲットシステム上に 2 つの異なるアドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI インストールが共有パッケージをインストールした場合、1 つだけがアンインストールされたとき、共有パッケージも削除されました。共有パッケージが不足すると、残りのアドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI 製品が使用不可能となる可能性があります。

この機能は、アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトの .msi、.msp、.exe、.appx、InstallScript、基本の MSI プロジェクト、および InstallScript プロジェクトのパッケージで使用できます。

この機能によって IOA-000080983 および IOJ-1666861 の問題が解決されます。

## アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのリリースで、製品名、製品バージョン、およびスイート GUID をオーバーライドできる機能

InstallShield では今回より、アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI プロジェクトの [一般情報] ビューで指定されたスイート GUID 値を、選択されたリリースの新しい値でオーバーライドすることができます。[一般情報] ビューの値をオーバーライドするには、[リリース] ビューでリリースの [ビルド] タブで使用できる新しい設定 (製品名、製品バージョン、およびスイート GUID) を使用します。

この機能により IOA-000077862 が解決されました。

# アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI プロジェクトのリリースで、パス変数の値をオーバーライドできる機能

InstallShield では今回より、プロジェクト内の各リリースでプロジェクトのカスタムパス変数（標準パス変数、環境パス変数、およびレジストリパス変数）の値をオーバーライドすることができます。この機能を使って、ビルドする特定のリリースごとに、ビルド時にプロジェクト内の特定のファイルとフォルダーを別のファイルとフォルダーに置換することができます。

たとえば、この機能を使って、プロジェクト内の異なるリリースでイメージや EULA などの UI 要素を置換することができます。これによって、プロジェクトの異なるエディションまたは異なるブランドバージョンのインストールを簡単に生成することができます。

プロジェクトで 1 つ以上のパス変数をオーバーライドする場合、[リリース] ビュー内のリリースの [ビルド] タブに追加された “パス変数のオーバーライド” 設定を使います。

この機能により IOJ-1659796 が解決されました。

# アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのオートメーションインターフェイス サポート

InstallShield では、インターフェイスを直接開いて異なるビューで変更を加えることなく、オートメーション インターフェイスを利用してアドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクト (issuite ファイル) のほとんどの開発およびビルド プロセスを自動化することができます。オートメーション インターフェイスを通して、アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトの様々な領域に、プログラムによるアクセスが可能です。オートメーション インターフェイスでは、多くの言語から呼び出してアドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI プロジェクトを作成、編集およびビルドできる COM インターフェイスが公開されます。

アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのトップ階層のオートメーション オブジェクトは、ISWiProject オブジェクトです。プロジェクトを開いて、変更、保存およびこれをと閉じるサンプル VBScript コードの始まりと終りは次の通りです：

```
Dim pProj As ISWiProject
Set pProj = CreateObject("ISWiAutoSuite22.ISWiProject")
pProj.OpenProject "C:\InstallShield 2015 Projects\Project1.issuite"
' 変更をここで行う
pProj.SaveProject
pProj.CloseProject
```

メソッドを呼び出し、プロパティを取得および設定、およびコレクションにアクセス、またプロジェクトに機能やパッケージを追加、条件の構成、その他を行うことができます。詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのオートメーション オブジェクト」章を参照してください。

アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI オートメーション インターフェイスの ProgID は ISWiAutoSuite22.ISWiProject です。その他のプロジェクト タイプの ProgID は ISWiAuto.ISWiProject です。

この機能により IOA-000077264 が解決されました。

# 新しい Microsoft Visual C++ 2013、.NET Framework 4.5.2 その他用の InstallShield 前提条件

InstallShield には、アドバンスド UI、基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI、およびスイート / アドバンスド UI プロジェクトに追加可能な新しい前提条件が含まれています：

- Microsoft Visual C++ 2013 再配布可能パッケージ (x86)
- Microsoft Visual C++ 2013 再配布可能パッケージ (x64)
- Microsoft .NET Framework 4.5.2 (完全版)
- Microsoft .NET Framework 4.5.2 (Web インストーラー)
- Microsoft .NET Framework 4.5.1 (完全版)
- Microsoft .NET Framework 4.5.1 (Web インストーラー)
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 (x86)
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 (x86 & x64Wow)
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 (x64)
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 LocalDB (x86)
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 LocalDB (x64)
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 Management Objects (x86)
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 Management Objects (x64)
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 System CLR Types (x86)
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 System CLR Types (x64)
- Microsoft SQL Server 2008 Express SP1
- Microsoft SQL Server 2005 Express SP3
- Windows 7 (x86) 用 Internet Explorer 11.0
- Windows 7 と Windows Server 2008 R2 (x64) 用の Internet Explorer 11.0
- Microsoft ReportViewer 2012

これらの前提条件は、サポートされているターゲット システムに適切なテクノロジーをインストールします。

Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 前提条件は、Microsoft SQL Server 2012 Express SP1 前提条件にとって代わります。

この機能によって IOJ-1701054 および IOJ-1726208 の問題が解決されます。

# Internet Explorer 10 および 11 用の新しい定義済みシステム検索

InstallShield には、ターゲットシステム上で Internet Explorer 10 または Internet Explorer 11 を確認する新しい定義済みのシステム検索が含まれています。インストールまたは製品でこれらのバージョンのどちらかが必要な場合、[システム検索] ビューまたはプロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページを使って、これらのシステム検索の 1 つをプロジェクトに追加することができます。エンドユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲットシステムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラーメッセージが表示されます。

この変更は、基本の MSI および InstallScript MSI プロジェクトに含まれています。

# Microsoft App-V 5.0 SP3 の仮想アプリケーションを作成するためのサポート、追加の App-V パッケージの強化機能

InstallShield および InstallShield の Microsoft App-V アシスタントには、Microsoft App-V 5.0 SP3 クライアント上で実行できる仮想アプリケーションを作成するためのサポートが含まれています。また、Microsoft App-V アシスタントには、App-V 5.0 SP3 または App-V の以前のバージョンに適用する、新しい設定と機能が含まれています。

## 新しい App-V 5.0 SP3 用 InstallShield 前提条件

InstallShield には、アドバンスド UI、基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI、およびスイート / アドバンスド UI プロジェクトに追加可能な新しい前提条件が含まれています：

- Microsoft App-V 5.0 SP3 Desktop Client (x86)
- Microsoft App-V 5.0 SP3 Desktop Client (x64)

これらの InstallShield 前提条件用の再配布可能ファイルは Microsoft から入手しなくてはならないため、InstallShield 内部からダウンロードすることはできません。Microsoft から再配布可能ファイルを手にした後、InstallShield 前提条件エディターで前提条件を編集するときに表示される場所に配置してください。

## プライマリ アプリケーション ディレクトリの代わりに、仮想ファイル システムにファイルをマップできる機能

Microsoft App-V アシスタントを使って、今回より、仮想ファイル システム (VFS) にファイルをマップするように App-V パッケージを構成することができます。このサポートは、App-V 4.x および 5.x パッケージで使用できます。

VFS にファイルをマップするか、プライマリ アプリケーション ディレクトリを使用するかを指定するには、Microsoft App-V アシスタントの [ファイル] ページを使用します。このページのその他の [オプション] 領域には、新しいファイルマッピング リンクが含まれています。この新しいリンクをクリックすると、新しい [ファイル マッピング] ダイアログ ボックスが開き、適切なオプションを選択することができます。

[ファイル マッピング] リンクとダイアログ ボックスは、[プライマリ アプリケーション ディレクトリ] リンクとダイアログ ボックスを置換します。ここでは、プライマリ アプリケーション ディレクトリを指定することができます。

## 仮想ファイル システムに完全な書き込みアクセス権を持つ App-V 5.x パッケージを作成できる機能

Microsoft App-V アシスタントを使って、今回より、作成中の App-V 5.x パッケージに仮想ファイル システム (VFS) の完全な書き込みアクセス権を持たせるかどうかを指定することができます。このサポートを使用するかどうかを指定するには、新しい [VFS の完全な書き込みアクセス権を許可する] チェックボックスを使います。このチェックボックスは、[詳細オプション] 領域にある [ファイル マッピング] リンクをクリックすると表示される Microsoft App-V アシスタントの [ファイル] ページから使用できる [ファイル マッピング] ダイアログ ボックスにあります。

## App-V5.x の詳細 COM 分離の設定を構成できる機能

Microsoft App-V アシスタントを使って、今回より、COM 分離の詳細設定を構成できます。このサポートは、App-V 5.x パッケージで使用できます。

新しい設定を構成するには、Microsoft App-V アシスタントの [パッケージ情報] ページを使用します。このページの [詳細オプション] 領域には、新しい [分離の設定] リンクが含まれています。この新しいリンクをクリックすると、新しい [分離の設定] ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスを使って、ローカル システムから COM オブジェクトを分離するかどうか、または COM オブジェクトとローカル システムの対話を許可するかどうかを指定できます。このダイアログ ボックスを使って、ローカル システムから名前付きオブジェクトを分離するかどうか、または名前付オブジェクトとローカル システムの対話を許可するかどうかを指定できます。

Microsoft App-V アシスタントは、仮想化パックに含まれています。

この機能によって、IOJ-1720473、IOJ-1724900、IOJ-1725148、および IOJ-1726018 が解決されます。

## 強化機能

InstallShield 2015 には、以下のような強化機能が追加されています。

- [ファイルとフォルダー] ビューのパフォーマンス強化
- 機能ごとに [ファイルとフォルダー] ビューのアイテムをフィルターできる機能
- 基本の MSI インストールおよび InstallScript MSI インストールにおける PowerShell スクリプトからインストーラー セッションにアクセスできる機能
- トランスフォーム プロジェクトおよび MSI データベースでメジャー アップグレードを構成できる機能
- アドバンスド UI およびスイート / アドバンスド UI ログ ファイルへのパスワードの書き込みを防ぐ ISHiddenProperties プロパティの強化
- アドバンスド UI およびスイート / アドバンスド UI インストールのウィザード インターフェイスで使用されているアンパサンドの解釈に関する強化

- ・ アドバンスド UI およびスイート / アドバンスド UI インストールにおけるファイル関連タイプの条件のチェックで複数のターゲット システム パスを検索できる機能強化
- ・ アドバンスド UI およびスイート / アドバンスド UI プロジェクトで、特定の種類のファイル関連条件のチェックと共に InstallShield 前提条件をインポートする際の機能強化
- ・ オートメーション インターフェイスを使ってプロジェクトをアップグレードできる機能
- ・ オートメーション インターフェイスを使って、リリースに仮想マシン構成を選択できる機能
- ・ ISICE 11 に追加された強化機能
- ・ 基本の MSI、DIM、およびマージ モジュールプロジェクトで強化された [ダイアログ] ビュー : 各コントロールのすべての “動作” 設定を単一のグリッドで表示
- ・ 強化されたフォルダー ビューで、現在のプロジェクトに含まれる各アイテムの合計数を表示
- ・ 未使用のコンポーネントを自動的に削除する、新しいマシン全体の設定
- ・ Binary テーブルのファイルを使用するカスタム アクションを削除する強化された機能
- ・ セットアップランチャーに同じカスタム アイコン ファイルを使用する同時実行ビルドの生成における強化機能
- ・ 新しいスタンドアロン ビルド レジストリ エントリが InstallShield バージョン情報を表示

## [ファイルとフォルダー] ビューのパフォーマンス強化

サイズが大きいプロジェクトの [ファイルとフォルダー] ビューををより短時間でロードできるように、InstallShield が強化されています。

この強化により IOJ-1667312 が解決されます。

## 機能ごとに [ファイルとフォルダー] ビューのアイテムをフィルターできる機能

[ファイルとフィルター] ビューには今回より、[すべてのアプリケーション データ] オプションの他に、プロジェクト内の各機能を一覧表示するビュー フィルターが追加されました。このフィルターを使って、このビューのインストール先ペインのファイルとフォルダーを表示または非表示にします。

- ・ このビューで特定の機能に属するファイルとフォルダーのみを表示するには、[ビュー フィルター] リストで機能を選択します。
- ・ 特定の機能にファイルまたはフォルダーを追加するには、[ビュー フィルター] リストで機能を選択します。次に、[インストール先コンピューターのフォルダー] ペインの適切な場所にファイルまたはフォルダーを追加します。
- ・ プロジェクトに含まれるすべてのファイルとフォルダーを表示するには、[ビュー フィルター] リストで [すべてのアプリケーション データ] オプションを選択します。

新しい [ビュー フィルター] は、以前の [機能に新しいコンポーネントを追加する] フィルターの代わりとなります。これまでは、選択された機能によってビュー内のファイルとフォルダーを表示または非表示にする機能がありませんでした。

この強化により IOA-000082226 が解決されます。

## 基本の MSI インストールおよび InstallScript MSI インストールにおける PowerShell スクリプトからインストーラー セッションにアクセスできる機能

PowerShell カスタム アクション サポートが強化されました。今回より、実行中の基本の MSI インストールまたは InstallScript MSI インストールとの対話操作を可能にする、いくつかの cmdlet をサポートします: cmdlet を使って Windows Installer プロパティを取得および設定し、形式化された式の値を展開し、情報をログ ファイルに書き込むことができます。

この改訂された実装により、Windows Installer プロパティ IS\_CLR\_VERSION を利用して、カスタム アクションがダウンロードして PowerShell スクリプトを実行するセミコロンで区切られた .NET Framework のバージョン一覧を識別することができます。

この強化により IOA-000078121 が解決されます。

## トランスフォーム プロジェクトおよび MSI データベースでメジャー アップグレードを構成できる機能

トランスフォーム プロジェクトの [アップグレード] ビューと、MSI データベースのダイレクト編集モードには、今回よりメジャー アップグレードを作成できる [アップグレード] ビューが含まれています。トランスフォーム プロジェクトに、または MSI データベース プロジェクトのダイレクト編集モードでアップグレード エントリを追加するには、[Windows Installer セットアップ] ノードを右クリックしてから [メジャー アップグレード アイテムの追加] を選択します。必要に応じて、右側のペインで設定を構成します。

この強化により IOB-000062734 が解決されます。

## アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI ログ ファイルへのパスワードの書き込みを防ぐ ISHiddenProperties プロパティの強化

ISHiddenProperties プロパティは、大文字と小文字を区別するプロパティ名のリストをセミコロン区切りで格納し、それらの値をデバッグ ログ ファイルに書き込まないようにできます。このプロパティを使って、パスワードその他の機密情報を含むプロパティのログ記録を防ぐことができます。

ISHiddenProperties プロパティが強化されました。このプロパティを使って、次の状況で値がログ記録されるのを防ぐことができます：

- ・ アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI Setup.exe ファイルを起動したときに、エンドユーザーが、コマンドラインを使ってプロパティの値を設定する場合。
- ・ アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI インストールがパッケージに渡すコマンドラインを使ってプロパティが構成される場合。これは [パッケージ] ビューの [共通] タブ、[操作] 領域で構成できます。

以前、ISHiddenProperties は、プロパティ値を変更するとログ記録される値に限ってログ記録を防ぎました。

この強化により IOJ-1719756 が解決されます。

## アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストールのウィザード インターフェイスで使用されているアンパサンドの解釈に関する強化

アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのウィザード インターフェイスの特定の領域で、アンパサンドの解釈が更新されました。

インストールでウィザード インターフェイスの次の任意の領域でアンパサンド (&) を使用する場合、今回より、インストールはアンパサンドをリテラル文字として表示します。以前はアンパサンドがキーボード ショートカットの先頭の文字として解釈されました。この変更はまた、これらの文字列にアンパサンドを含む値に解決するプロパティが含まれている場合にも適用します。

- ・ ウィザード ページまたは 2 番目のウィンドウのヘッダー領域にある文字列 - これは [ウィザード インターフェイス] ビューでウィザード ページまたはウィンドウの “タイトル” 設定で構成されます。
- ・ ウィザード ページのキャプション バー - これは [ウィザード インターフェイス] ビューで [ウィザード ページ] ノードの “ウィザード キャプション” 設定で構成されます。
- ・ コマンド リンク コントロールの [補足説明] 領域 - これはウィザード ページまたはウィンドウの “メモ” 設定で構成されます。
- ・ イメージ コントロールの代替テキスト - これはウィザード ページまたはウィンドウにあるイメージ コントロールの “代替テキスト” 設定で構成されます。

ほとんどのラベル コントロールでは、今回より、“スタイル” 設定の下にある SS\_NOPREFIX サブ設定のデフォルトの選択が True となりました。以前はデフォルトで False が選択されていました。このサブ設定が True 値に設定されていることで、これらのコントロールの文字列エントリに含まれるアンパサンドが誤ってキーボード ショートカットとして解釈されないようにし、コントロールの文字列に含まれるアンパサンドをウィザード インターフェイスのアンパサンドとして正確に表示します。これは、定義済みウィザード ページだけでなく、ビルトイン デフォルト ウィザード ページとウィンドウにも適用します。この SS\_NOPREFIX サブ設定の変更に関する唯一の例外は、キーボード ショートカットを含むラベル コントロールです。たとえば、デフォルトの定義済み [Web 配布] ウィザード ページには、対応するラベルにキーボード ショートカットが含まれている可能性があるいくつかのテキスト ボックスがあります。したがって、このようなコントロールの SS\_NOPREFIX サブ設定のデフォルト値は False のままとなります。

InstallShield ヘルプ ライブラリには、ウィザード インターフェイスにおけるアンパサンドおよびキーボード ショートカットの使用をサポートするためのプロジェクト構成方法について説明する、新しい「ウィザード インターフェイスにおけるキーボード ショートカットの指定とアンパサンド (&) の使用」ヘルプ トピックが追加されました。

この強化により IOJ-1722935 が解決されます。

# アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストールにおけるファイル連関連タイプの条件のチェックで複数のターゲット システム パスを検索できる機能強化

アドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI プロジェクトで終了、検出、対象、機能、またはウィザード インターフェイス条件の条件ステートメントをビルドするとき、またはスイート / アドバンスト UI プロジェクトでアクション条件の条件ステートメントをビルドするとき、次のファイル関連タイプの条件チェックを使用できます：

- ・ ファイルの存在 - ターゲット システムをチェックして、特定のファイルの有無を確認します。
- ・ ファイルの比較 - ターゲット システムをチェックして、特定のファイルの特定の情報（日付、バージョン番号、またはコンポーネント）を確認します。

これら両方の条件チェックが拡張され、ターゲット システム上の複数のパスでファイルを確認する条件を定義できるようになりました。以前、各条件はターゲット システム上にある特定の場所を 1 つだけ確認することができました。

このサポートを有効にするため、これらの条件に既存する “パス” 設定がファイルの名前だけを入力できるように拡張されました（つまり、オプションでパスが不要となりました）。パスを入力しない場合、新しい “検索パス” 設定を使って、インストールが実行時に特定のファイルを確認するセミコロン区切りのパス一覧を指定することができます。この設定にプロパティ名、環境変数リファレンス、その他の特殊文字列を含む 1 つ以上の形式化された式を使用することができます。実行時、インストールがこれらの式の値を拡張します。

たとえば、ターゲット システム上でレジストリで定義されたパスだけでなく、PATH 環境変数で定義されたすべてのディレクトリで指定されたファイルを検索するには、“検索パス” 設定に次の値を入力します：

```
[%PATH];[Registry(HKLM\SOFTWARE\MyPath).KeyValue(MyValue)]
```

# アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトで、特定の種類のファイル関連条件のチェックと共に InstallShield 前提条件をインポートする際の機能強化

アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトでは、今回より、InstallShield 前提条件でサポートされている次の条件を使用できます：

ある前提条件で、[ファイルが存在しているかしていないか] または [特定の日付を持つファイルが存在する] という条件を使用していて、かつ、そのファイルのパスの一部に対して、角括弧で囲まれたレジストリ キーを参照している場合、基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI インストールでは、レジストリ キーがレジストリ値で解決されます。アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストールにおける条件の形式化された式のサポートが拡張されたため、これらの種類の前提条件

は、アドバンスド UI およびスイート / アドバンスド UI プロジェクトに適切にインポートされ、実行時に解決されます。以前、角括弧に囲まれたレジストリ キーが実行時に解決されず、これらの条件が常に False と評価されました。

ある前提条件で、[ファイルが存在しているかしていないか]または[特定の日付を持つファイルが存在する]という条件を使用していて、そのファイルのパスを省略した場合、基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI インストールでは、ターゲット システムで PATH 環境変数で定義されているすべてのディレクトリで、指定されたファイルが検索されます。アドバンスド UI およびスイート / アドバンスド UI インストールにおける条件の形式化された式のサポートが拡張されたため、これらの種類の前提条件は、アドバンスド UI およびスイート / アドバンスド UI プロジェクトに適切にインポートされ、実行時に解決されます。以前、ファイルへのパスが解決されなかったため、この種類の条件は常に False と評価されました。

Oracle Instant Client 用の InstallShield 前提条件は、ファイル関連の条件を使用する前提条件の例です。これらの種類の InstallShield 前提条件をアドバンスド UI またはスイート / アドバンスド UI プロジェクトにインポートすると、今回より、[パッケージ]ビューの“検出条件”設定でファイル関連の条件が正しく構成されます。

## オートメーション インターフェイスを使ってプロジェクトをアップグレードできる機能

オートメーション インターフェイスには、InstallShield の以前のバージョンから現在のバージョンへのプロジェクトのアップグレードがサポートされています。オートメーション インターフェイスを使ってプロジェクトをアップグレードするには、ISWiProject オブジェクトの ForceUpgrade メソッドを使用します。

この強化機能は、アドバンスド UI、基本の MSI、DIM、InstallScript、InstallScript MSI、InstallScript オブジェクト、マージ モジュール、およびスイート / アドバンスド UI プロジェクト タイプで使用できます。

この強化により IOA-000124977 が解決されます。

## オートメーション インターフェイスを使って、リリースに仮想マシン構成を選択できる機能

オートメーション インターフェイスでは、指定のリリースに仮想マシン構成を選択することができます。これによって、ビルド時に選択されたリリースを仮想マシン (VM) に配布する際に使用する構成を指定することができます。

基本の MSI、InstallScript、および InstallScript MSI プロジェクトでは、ISWiReleases オブジェクトに新しい読み書きプロパティが含まれています。スイート / アドバンスド UI プロジェクトでは、ISWiSuiteReleases オブジェクトに同じ新しい読み書きプロパティが含まれています。

- **VMConfig**— このプロパティは、リリースを VM に配布するときに使用する VM 構成設定グループの名前を取得または設定します。
- **VMSnapShot**— このプロパティはオプションで、リリースの配布に使用するスナップショットの名前を取得または設定します。

VM 構成にスナップショットが指定されていない場合、InstallShield は特定のスナップショットには戻りません。InstallShield は特定のスナップショットに戻さずに VM の電源をオンにして、VM にインストールをコピーします。

- **VMMachineUserName**— このプロパティは VM 構成のユーザー名を取得または設定します。
- **VMMachinePassword**— このプロパティは VM 構成のパスワードを取得または設定します。
- **VMStageMachineCopyPath**— このプロパティは、リリースの配布先となる VM 上の場所を取得または設定します。パスの最後のサブフォルダーとして、InstallShield が VM 上に作成するパスを使用できます。その他のパスは既存していません。
- **VMStagePostBuild**— このブール型プロパティは、ビルドが成功するたびに選択されたリリースを、InstallShield で自動的に配布するかどうかを示します。

この強化機能は InstallShield Premier Edition で提供されています。

この強化により IOJ-1663785 が解決されます。

## ISICE 11 に追加された強化機能

InstallShield 内部性合成評価プログラム 11 (ISICE11) が改良されました。プロジェクトに含まれる実行可能ファイルに trustInfo 要素の asm.v2 エントリが含まれている有効なマニフェストが含まれているとき、検証中に ISICE11 が発生することがなくなりました。以前、asm.v3 エントリはチェックされましたが、asm.v2 エントリはチェックされませんでした。

この強化により IOJ-1720356 が解決されます。

## 基本の MSI、DIM、およびマージ モジュールプロジェクトで強化された [ダイアログ] ビュー: 各コントロールのすべての "動作" 設定を単一のグリッドで表示

[ダイアログ] ビューが強化されています。実行時ダイアログ上の各ユーザー インターフェイス コントロールの動作 (イベント、サブスクリプション、および条件) を構成できるすべての設定が、今回より、単一のグリッドで表示されます。以前は、ビューの右下に表示される個別の [イベント]、[サブスクリプション]、および [条件] タブに設定が表示されました。

イベント、サブスクリプション、または条件をコントロールに追加するには、[ダイアログ] ビューで、コントロールを含むダイアログの下にある [動作] ノードを選択します。ダイアログで使用されているコントロールが中央ペインに表示されます。ここで構成するコントロールを選択します。次に、右側ペインに表示される "イベント"、"サブスクリプション"、および "条件" 設定を使って適切な動作を構成します。

この強化機能は、基本の MSI、DIM、およびマージ モジュール プロジェクト タイプで使用できます。

## 強化されたフォルダービューで、現在のプロジェクトに含まれる各アイテムの合計数を表示

InstallShield のフォルダービューでは、今回より、プロジェクトに含まれるコンテンツの概要を確認することができます。

たとえば、一部のプロジェクトタイプで [ファイルとフォルダー] ビューと [再配布可能ファイル] ビューを含むフォルダービューである [アプリケーション データ] ビューは、現在のプロジェクトに含まれるファイルの数、マージ モジュールの数、および InstallShield 前提条件の数を示します。[ショートカット] や [レジストリ] などのビューを含むフォルダービューである [システム構成] ビューは、ショートカットの数、レジストリ キーの数、およびレジストリ値の数といった概要データを表示します。

この強化により IOJ-1724710 が解決されます。

## 未使用のコンポーネントを自動的に削除する、新しいマシン全体の設定

の [オプション] ダイアログにある [ファイルビュー] タブに、新しく [未使用のコンポーネントをクリーンアップする] チェックボックスが追加されました。このチェックボックスを使って、InstallShield でプロジェクトから未使用のコンポーネントを自動的に削除するかどうかを指定することができます。

このチェックボックスが選択されているときに、コンポーネントのすべてのファイルを削除して、そのコンポーネントが別の領域で必要でない場合、そのコンポーネントは自動的に削除されます。

この新しいチェックボックスは、マシン全体に影響する設定です。このチェックボックスはデフォルトでクリアの状態です。したがって、デフォルトで未使用のコンポーネントは自動的に削除されません。

この強化により IOA-000081240 が解決されます。

## Binary テーブルのファイルを使用するカスタムアクションを削除する強化された機能

Binary テーブルのファイルを使用するカスタムアクションをプロジェクトから削除するとき、InstallShield は、Binary テーブルのファイルがプロジェクト内の別のカスタムアクションで参照されているかどうか判別します。別のカスタムアクションで参照されていない場合、InstallShield はカスタムアクションを削除すると同時に、Binary テーブルからエントリを削除するかどうかを指定できるプロンプトを表示します：

デフォルトの選択である [いいえ] ボタンは、カスタムアクションのみを削除できます。

[はい] ボタンは、カスタムアクションと Binary テーブル エントリの両方を削除できます。

[キャンセル] ボタンは、カスタムアクションと Binary テーブル エントリの両方が削除されないようにします。

プロジェクト内の 1 つ以上のアクションが Binary テーブル内のファイルを参照する場合、InstallShield は削除が指定されているカスタム アクションのみを削除します。Binary テーブル エントリは削除されません。このシナリオでは、InstallShield はカスタム アクションを削除するときにプロンプトを表示しません。

以前、前述の状況下でカスタム アクションを削除すると、Binary テーブルのエントリがプロジェクト内の別のカスタム アクションで参照されているかどうかにかかわらず、常に Binary テーブルのエントリを削除するかどうかを問い合わせるプロンプトが表示されました。このプロンプトのデフォルト ボタンは [はい] で、カスタム アクションと Binary テーブルのエントリの両方が削除されます。このデフォルトの動作によって、Binary テーブルのエントリの削除が誤って選択されることがありました。

この強化機能は、基本の MSI、DIM、InstallScript MSI、マージ モジュール および トランスフォーム プロジェクト タイプに適用します。

この強化により IOB-000063404 が解決されます。

## セットアップランチャーに同じカスタム アイコン ファイルを使用する同時実行ビルドの生成における強化機能

ビルドを同時に生成する場合、リリースが Setup.exe に同じカスタム アイコン ファイルを使用するとき、ビルドが正しく完了し、セットアップランチャーが指定されたカスタム アイコン ファイルを使用します。以前、一部の状況下でビルド警告 -7212 (「Setup.exe のアイコンを更新できませんでした。Setup.exe はデフォルト アイコンを使用します。」) が発生することがありました。

## 新しいスタンドアロン ビルド レジストリ エントリが InstallShield バージョン情報を表示

スタンドビルド インストールは、今回より、InstallShield インストールが HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥InstallShield¥VersionNumber¥Professional の下にインストールするのと同じ InstallShield バージョン関連レジストリ値をインストールします。これによって、使用中の環境内のすべての開発マシンとビルド マシンで、製品の同じバージョンを使用しているかどうかを素早く検証することができます。関連するレジストリ値:

- ・ 製品コード—このレジストリ値は、InstallShield IDE またはスタンドアロン ビルドのどちらがインストールされているかによって異なります。これらのツールのメジャー アップグレードの際に更新されます。
- ・ MPIndicator—適切な場合、このレジストリ値はメンテナンスパックを示します。(たとえば、サービス パック 1)。
- ・ SP—適切な場合、このレジストリ値はサービス パックの番号を示します(たとえば、1)。

InstallShield 2015 および InstallShield 2015 スタンドアロン ビルドの場合、レジストリ値は次のキーの下にインストールされます:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥InstallShield¥22¥Professional
```

この強化により IOJ-1723003 が解決されます。

# 重要な情報

## InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、ナレッジベース記事「[Q200900](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。

## InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、フレクセラ・ソフトウェア製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です：

- InstallShield
- 再配布可能ファイル（たとえば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト）
- Standalone Build、InstallShield Collaboration、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン（使用可能な場合）
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア（同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合）
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック（使用可能な場合）

## InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2015 の Premier、Professional、または Express Edition の中から、同じシステム上に同時に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2015 DIM Editor を、InstallShield 2015 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

## InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2015 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2015 Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション

ン インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする」ヘルプ トピックに記載されている、特別な登録とア インストールの考慮について参照してください。

## プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2014 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2015 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2015 プロジェクトと InstallShield 2014 および以前のバージョンから InstallShield 2015 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

## InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield 2015 を使って以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、プロジェクトを新しいバージョンに変換するかどうかを質問するメッセージ ボックスが表示されます。[変換する]を選択すると、変換が行われる前に、例えば .775 (.ism プロジェクトの場合)または .2014 (.issuite プロジェクトの場合)というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .775 または .2014 を取り除いてください。InstallShield 2015 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2014 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2015 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2015 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

## ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

今回より、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最低バージョンです。これはすべてのプロジェクト タイプに適用します。

## Visual Studio のサポートされているバージョン リストに関する変更

InstallShield Premier Edition または Professional Edition と統合することが可能な最も古い Visual Studio バージョンは Visual Studio 2010 となります。InstallShield は今回より、Visual Studio 2008 との統合をサポートしません。

# .spc および .pvk ファイルを使ったデジタル署名サポートの削除

InstallShield で、ビルド時に .spc および .pvk ファイルにデジタル署名を行うサポートは、今後使用できません。

InstallShield 2014 以前で、リリースまたはパッチに .spc および .pvk ファイルを使って実行時にデジタル署名を行うように構成済みで、そのプロジェクトを InstallShield 2015 で開こうとすると、アップグレード警告 -6048 が表示されます。この警告は、アップグレード中に InstallShield によって .pvk ファイルおよび関連パスワードがプロジェクトから削除されることを説明します。

InstallShield 2015 でリリースまたはパッチを正しくビルドするためには、そのリリースまたはパッチ構成から .spc の参照を削除する必要があります。これを、.pfx 証明書または証明書ストアにある証明書への参照と入れ換えることができます。

.spc の参照を削除せずにリリースまたはパッチのビルドを試みると、.spc ファイルの削除が必要であることを通知するビルド エラー -7347 が表示されます。

.spc ファイルおよび .pvk ファイルを .pfx ファイルに変換する方法については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「デジタル署名とセキュリティ」を参照してください。

## デジタル署名サポートにおけるオートメーション インターフェイスの変更

ISWiRelease オブジェクトは、今回より、次の読み書きプロパティをサポートしません：

- CorrespondingPrivateKey
- SoftwarePublishingCredentials

これらのプロパティを呼び出すと、エラーが発生します。これらのプロパティは、読み書き文字列プロパティ DigitalCertificateInfo に置き換えられています。

## InstallShield インストールからの SignTool.exe および Signcode.exe の削除

InstallShield をインストールしたとき、今回より SignTool.exe および Signcode.exe は開発マシンにインストールされません。手動でファイルにデジタル署名を行う場合、SignTool.exe の使用を考慮してください。SignTool.exe は、Microsoft Windows Software Development Kit (SDK) に含まれていて、Visual Studio と共にインストールされます。

## 基本の MSI インストールおよび InstallScript MSI インストールにおける PowerShell サポートの変更

基本の MSI インストールおよび InstallScript MSI インストールの PowerShell カスタム アクション サポートが改訂されました。サポートは Windows Installer プロパティ IS\_PS\_EXECUTIONPOLICY を使って、ターゲット システム上で PowerShell カスタム アクションを実行するのに使用する PowerShell 実行ポリシーの名前を示すことがなくなりました。実行時にこのプロパティを設定しても、インストールに何ら影響はありません。

## アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトにおける .msi パッケージのデフォルトの対象条件の変更点

アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクト内の共有パッケージをサポートできるように、InstallShield では以前必要だった .msi パッケージに対する MSI パッケージの対象条件が不要となりました。今回より、プラットフォームなどの実行時環境の要件を確認する .msi パッケージの対象条件の使用を制限できます。

InstallShield 2015 でアドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI プロジェクトに .msi パッケージを追加したとき、デフォルトでそのパッケージに MSI パッケージの対象条件が作成されることがなくなりました。この動作は新しい InstallShield 2015 プロジェクト、および InstallShield 2014 以前で作成してから InstallShield 2015 にアップグレードしたプロジェクトに適用します。

さらに、.msi パッケージに古いデフォルトの MSI パッケージの対象条件を含む InstallShield 2014 以前のプロジェクトを InstallShield 2015 にアップグレードした場合、InstallShield はパッケージの“対象条件”設定から条件の不要な部分を削除します。

一部の状況では、InstallShield 2014 以前のデフォルト MSI パッケージの対象条件をカスタマイズした場合、InstallShield 2015 はアップグレード中にそれを削除することがありますが、そのまま残す場合もあります。実際のアップグレード動作はカスタマイズによって異なります。たとえば、単純にプラットフォーム条件を追加した場合、InstallShield は条件の元の MSI パッケージ部分を削除し、プラットフォーム条件のみを残します。ただし、カスタマイズが複雑な場合、InstallShield は条件をそのまま残します。

InstallShield 2015 にアップグレードした後、.msi パッケージの対象条件が予定通りに構成されていることを確認することが推奨されます。

以前、.msi パッケージの“対象条件”設定のデフォルトの MSI パッケージ条件は、パッケージの独自の製品コードと製品バージョンのプレースホルダーとして、条件の“製品コード”および“製品バージョン”設定にアスタリスク(\*)を使用しました。

## アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI インストールのウィザード インターフェイスで使用されているアンパサンドの解釈に関する変更

アドバンスト UI およびスイート / アドバンスト UI プロジェクトのウィザード インターフェイスの特定の領域で、アンパサンドの解釈が更新されました。

新しい InstallShield 2015 プロジェクトの場合、ならびに InstallShield 2014 以前で作成したプロジェクトを InstallShield 2015 にアップグレードした場合、インストールでウィザード インターフェイスの次の任意の領域でアンパサンド (&) を使用すると、今回より、インストールはアンパサンドをリテラル文字として表示します。以前はアンパサンドがキーボード ショートカットの先頭の文字として解釈されました。この変更はまた、これらの文字列にアンパサンドを含む値に解決するプロパティが含まれている場合にも適用します。

- ・ ウィザード ページまたは 2 番目のウィンドウのヘッダー領域にある文字列 – これは [ウィザード インターフェイス] ビューでウィザード ページまたはウィンドウの “タイトル” 設定で構成されます。
- ・ ウィザード ページのキャプション バー – これは [ウィザード インターフェイス] ビューで [ウィザード ページ] ノードの “ウィザード キャプション” 設定で構成されます。
- ・ コマンド リンク コントロールの [補足説明] 領域 – これはウィザード ページまたはウィンドウの “メモ” 設定で構成されます。
- ・ イメージ コントロールの代替テキスト – これはウィザード ページまたはウィンドウにあるイメージ コントロールの “代替テキスト” 設定で構成されます。

さらに、ほとんどのラベル コントロールでは、今回より、“スタイル” 設定の下にある SS\_NOPREFIX サブ設定のデフォルトの選択が True となりました。以前はデフォルトで False が選択されていました。このサブ設定が True 値に設定されていることで、これらのコントロールの文字列エントリに含まれるアンパサンドが誤ってキーボード ショートカットとして解釈されないようにし、コントロールの文字列に含まれるアンパサンドをウィザード インターフェイスのアンパサンドとして正確に表示します。

これらの SS\_NOPREFIX の変更は、新しい InstallShield 2015 プロジェクトで使用可能なビルトイン デフォルトおよび定義済みのウィザード ページとウィンドウに適用します。InstallShield 2014 以前のプロジェクトを InstallShield 2015 にアップグレードした場合、SS\_NOPREFIX 設定は標準のビルトイン デフォルト ウィザード ページとウィンドウへ自動的に変更されます。ただし、これらのプロジェクトを InstallShield 2015 にアップグレードするとき、定義済みウィザード ページを含み、カスタムウィザード ページとウィンドウは自動的に変更されません。これらのアンパサンドの解釈を変更する場合、手動で変更を行ってください。

以前は、単一のアンパサンドを表示する代わりに、ウィザード インターフェイスの前述の領域でアンパサンドが誤ってキーボード ショートカットを指定した問題を回避するために、単一のアンパサンドの場所にエスケープ アンパサンド (&&) を使用することができました。しかし、これらのワークアラウンドを 1 つ以上含むプロジェクトを InstallShield 2015 にアップグレードした場合、今回より、エスケープ アンパサンドが 2 つのアンパサンドを表示することになります。このため、プロジェクト内のウィザード インターフェイスにおけるアンパサンドの使用を確認して、必要に応じて変更を行なう必要があります。

## 基本の MSI、InstallScript、および InstallScript MSI インストールで、セットアップの初期化および InstallShield 前提条件の待機中ダイアログでアンパサンドの解釈が変更されました。

基本の MSI、InstallScript、および InstallScript MSI の実行時ユーザー インターフェイスの一部の領域で、アンパサンドの解釈が変更されました。

新しい InstallShield 2015 プロジェクトの場合、ならびに InstallShield 2014 以前で作成したプロジェクトを InstallShield 2015 にアップグレードした場合、インストールで実行時 UI の初期化領域のスタティックコントロールでアンパサンド (&) を使用すると、今回より、インストールはアンパサンドをリテラル文字として表示します。以前はアンパサンドがキーボードショートカットの先頭の文字として解釈されました。この変更はまた、これらの文字列にアンパサンドを含む値に解決するプロパティが含まれている場合にも適用します。影響を受ける領域の例として、待機中の InstallShield 前提条件ダイアログや、標準および小さい初期化ダイアログにあるテキストフィールドがあります。

以前は、単一のアンパサンドを表示する代わりに、UI の前述の領域でアンパサンドが誤ってキーボードショートカットを指定した問題を回避するために、単一のアンパサンドの場所にエスケープアンパサンド (&&) を使用することができました。しかし、これらのワークアラウンドを 1 つ以上含むプロジェクトを InstallShield 2015 にアップグレードした場合、今回より、エスケープアンパサンドが 2 つのアンパサンドを表示することになります。このため、プロジェクト内の UI におけるアンパサンドの使用を確認して、必要に応じて文字列エントリに変更を行なう必要があります。

## Trialware サポート

InstallShield は今後、Try and Buy/ プロダクト アクティベーション タイプの Trialware を作成するためのサポートを含みません。今後、Trialware ビューは InstallShield に含まれていません。

## オートメーション インターフェイスの変更

InstallShield または Standalone Build のオートメーション インターフェイスまたは Standalone Build を使用する場合、既存のコードを更新して、新しい ProgID (IsWiAuto22.ISWiProject) を反映させてください。Standalone Automation Interface は、InstallShield と同じ ISWiAutomation22.dll ファイルを使用しますが、インストールされる場所が異なります。

Standalone Build を InstallShield と同じマシンにインストールする場合、最後に登録された ISWiAutomation22.dll ファイルが使用されますので注意してください。

## バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています：

- [InstallShield 2015 SP2](#)
- [InstallShield 2015 SP1](#)
- [InstallShield 2015](#)

# InstallShield 2015 SP2

次の問題が、InstallShield 2015 SP2 で修正されました：

| 問題番号          | 問題の概要  |
|---------------|--|
| IOA-000081824 | <p>フレクセラ・ソフトウェア ナレッジベースに記事「<a href="#">Best Practices to Avoid Windows Setup Launcher Executable Issues (Windows セットアップ ランチャー実行可能ファイルの問題を回避するためのベスト プラクティス)</a>」が追加されました。以前のバージョンで使用可能な関連ホットフィックスは、このリリースに含まれています。</p>   |
| IOJ-1755473   | <p> <b>プロジェクト</b>・この情報は、トランスフォーム プロジェクトに適用します。</p> <p>ダイアログをトランスフォームに追加してから、そのダイアログ上のコントロールにイベントを追加することができます。以前は、このシナリオでクラッシュすることがありました。</p>  |
| IOJ-1735185   | <p> <b>プロジェクト</b>・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ アドバンスト UI</li><li>・ スイート/アドバンスト UI</li></ul> <p>/PROPERTY:value を使うコマンドラインによって抑制されるスイート プロパティが ISHiddenProperties に含まれているとき、これらがデバッグ ログで隠されます。</p> <p>InstallShield 2015 から、コマンドラインを使って渡されるスイート プロパティを ISHiddenProperties に追加すると、デバッグ ログでこれを隠すことができるサポートが追加されました。スイートでは、プロパティの設定方法が 2 種類あります：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ PROPERTY=value</li><li>・ /PROPERTY:value</li></ul> <p>以前、ISHiddenProperties が含まれているときは予定通り PROPERTY=value を使うセットはデバッグ ログで隠れましたが、/PROPERTY:value を使うセットは隠れませんでした。</p> |
| IOJ-1740227   | <p>同じ証明書ストアに類似するサブジェクトを持つ 2 つのデジタル証明書が存在する場合、選択された証明書のみがセットアップの署名に使用されます。以前、このシナリオでは、同じインスタンスに誤った証明書を使って署名が行われたため、矛盾した結果が発生しました。</p>   |

## 問題番号

## 問題の概要

IOJ-1753265



プロジェクト・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用します。

新しい InstallScript プロジェクトを作成して、インストールが Windows XP SP3 で実行する場合、インストール中に [セットアップの種類] ダイアログで選択された [カスタム] オプションが選択されると、機能の選択ダイアログ ボックスに機能を選択または選択解除することができるチェックボックス付きの機能の一覧が正しく表示されます。以前、InstallShield 2015 SP1 にホットフィックス IOJ-1745445 を適用している環境で InstallScript プロジェクトを作成すると、カスタム インストール中の機能選択ダイアログでチェックボックスが表示されませんでした。

IOJ-1753850



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール
- ・ MSI データベース
- ・ MSM データベース
- ・ トランスフォーム

新しいコンポーネントが作成されると、コンポーネントのインストール先の CreateFolder テーブルにエントリが追加されます。コンポーネントにファイルを追加すると、CreateFolder テーブルのエントリが削除されます。InstallShield 2015 では、新しいコンポーネントにファイルが追加されたときに、関連する CreateFolder テーブルのエントリが削除されないという予期しない動作が起きました。

IOJ-1777700

Visual Studio でビルドされたプロジェクトの一部で発生した致命的なビルド エラー -4340 (内部ビルド エラー) の原因が解決されました。

IOJ-1823819、  
IOJ-1742556

InstallShield は Visual Studio 2013 Update 5 との統合をサポートします。以前、InstallShield 2015 SP1 と Visual Studio 2013 Update 5 とを統合すると、ソリューションをクリックして様々なビューにアクセスしたり、Visual Studio 2013 Update 5 を使ってビルドを行うことができませんでした。

IOJ-1740162

InstallShield 2015 SP1 にアップグレードした後、特定のプロジェクトがビルド中にクラッシュする原因となる問題が解決されました。

IOJ-1739755

InstallShield を Windows 10 Hyper-V Server でアクティベートしたときに、InstallShield アクティベーションの不具合の原因となる問題が解決されました。以前、エラーメッセージとして「エラー 0: シリアル番号のアクティベーション [シリアル] に失敗しました」が表示されました。この修正によって、InstallShield のアクティベーションが正しく完了します。

| 問題番号        | 問題の概要  |
|-------------|--|
| IOJ-1752933 |  <p>プロジェクト・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用します。</p> <p>.NET インストーラー クラス コンポーネントを含むインストールが、特定バージョンの .NET 4.6 が搭載されたコンピューター上でビルドされたときに、基本の MSI プロジェクトがエラー 1001 を表示して失敗する原因となった問題が解決されました。</p>  |
| IOJ-1818168 |  <p>プロジェクト・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用します。</p> <p>InstallShield パッケージと Windows 10 Device Guard 間の非互換性の問題が修正されました。Device Guard は、Windows 10 システムにおけるコード整合性ポリシーを強化するための Microsoft の機能です。</p>  |
| IOJ-1815849 |  <p>プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本の MSI</li> <li>・ InstallScript MSI</li> </ul> <p>基本の MSI または InstallScript MSI で /Clone_wait パラメーターおよび /L 言語パラメーターを使ったとき、setup.exe が予定通りに動作します。以前、基本の MSI または InstallScript MSI でこのコマンドライン パラメーターの組み合わせを使用すると、予期しない言語が表示されました。</p> |

## InstallShield 2015 SP1

次の問題が、InstallShield 2015 SP1 で解決されました：

| 問題番号        | 問題の概要  |
|-------------|--|
| IOJ-1737342 |  <p>プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アドバンスド UI</li> <li>・ スイート/アドバンスド UI</li> </ul> <p>リリース フラグを使ってリリースから機能を除外したとき、今回より、エラーなしでビルドが正しく完了します。</p> |
| IOJ-1737068 | <p>InstallShield 日本語版の [[ ファイル ] ビュー ] タブ ([ オプション ] ダイアログ) の表示が正しく修正されました。</p>  |

**問題番号****問題の概要****IOJ-1736989**

InstallShield 2014 と InstallShield 2015 が同じマシン上にインストールされている場合にも、InstallShield 2014 の修復機能が正しく動作します。

**IOJ-1736418**

[ファイルとフォルダー] ビューにプライマリ出力を追加したとき、今回より、コンポーネントと機能が正しく関連付けられます。プロジェクトをビルドすると、プライマリ出力ファイルが含まれ、プライマリ出力用に追加されたコンポーネントが機能に関連付けられます。

**IOJ-1736192**

**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

次は、SP 1 ドキュメントのみの変更です。記述される動作は InstallShield 2015 に含まれます。

InstallShield は空白の対象条件を、パッケージのより新しいバージョンがターゲット システム上に既に存在しないことを確認するための要求として自動的に処理します。たとえば、サポートされていないプラットフォームへのインストールを阻止する [プラットフォーム] 条件など、自動の動作を保持したままでこの拡張を行うことができます。

.exe パッケージの場合、以前のバージョンがより新しいバージョンを上書きインストールできるように許可して、アドバンスト UI またはスイート/アドバンスト UI インストールが製品をダウングレードしないようにする適切な対象条件を作成します。

**IOJ-1736095**

**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

InstallShield は、PowerShell カスタム アクションのクローンを許可するように更新されました。

**IOJ-1736093**

**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

複数の PowerShell カスタム アクションを追加した場合、今回より、各 PowerShell カスタム アクションは、それぞれ一意にスケジュールされた PowerShell カスタム アクションに対して実行されます。

## 問題番号

## 問題の概要

IOJ-1735718



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

Windows アップデート KB3072630 がインストールされている場合でも、HKEY\_CURRENT\_USER の下にあるレジストリ アクセス許可の変更が、正しく処理されます。

IOJ-1735499

通常、OSD ファイルに含まれるターゲット バージョンは、App-V 4.x パッケージ フォーマットへの変換中に自動的に決定されます。ショートカット ターゲット ファイルのバージョンが使用されるか、ターゲット ファイルにバージョンが無い場合はデフォルト値の '1.0' が使用されます。

今回より、ISVirtualShortcut テーブルに手動でエントリを追加して、カスタムバージョンを設定することができます。

詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「Microsoft App-V への変換に使用できる詳細テーブル設定」を参照してください。

IOJ-1735304

プロジェクトを作成して Microsoft ReportViewer 2012 前提条件を含める場合、MicrosoftReportViewer 2012 前提条件ファイルをエラーなしで正しくダウンロードすることができます。

IOJ-1734790

プロジェクトに破損した .isproj を保存しようとする時、破損した .isproj ファイルは同じフォルダー内に .isproj.bak ファイルとしてバックアップされ、新しい .isproj ファイルと置換されます。

IOJ-1734359



プロジェクト・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用します。

レジストリ セットを InstallScript プロジェクトから削除すると、レジストリが正しく削除されます。

IOJ-1734069

[ファイルとフォルダー] ビューの [インストール先コンピューターのファイル] ペインに複数の DLL ファイルまたは .exe ファイルを追加した後、Windows ファイル エクスプローラーでタイムスタンプが変更されるようにファイルを変更した場合、今回より、Windows ファイル エクスプローラーに反映される最も新しいタイムスタンプに正確に更新されます。

IOJ-1733919



プロジェクト・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用します。

複数のイベントが同じプロパティを使用する場合でも、コントロール イベントに関連付けられている SetProperty のプロパティをエラーなしに変更することができます。

| 問題番号        | 問題の概要  |
|-------------|--|
| IOJ-1733677 | InstallShield を Visual Studio に統合したとき、[ファイルとフォルダー]ビューが正しく開きます。以前、一部のプロジェクトでこのビューを開いたときにハングまたはクラッシュすることがありました。  |
| IOJ-1733107 | InstallShield ヘルプ ライブラリに、Windows 10 の InstallScript 言語サポートに関する記述が改訂されました。「SYSINFO」と「FeatureFilterOS」セクションが更新され、また「定義済み定数」セクションに「ISOSL_WIN10」が追加されています。   |
| IOJ-1733016 |  <p><b>プロジェクト</b>・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本の MSI</li> <li>• InstallScript MSI</li> </ul> <p>MSBuild から .NET 2.0 アセンブリを含むプロジェクトをビルドしたときに、ビルドエラー -6212 または -7325 が発生する問題が解決されました。</p>                |
| IOJ-1732915 |  <p><b>プロジェクト</b>・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用します。</p> <p>以前と同様に、ソース ファイルへのパスが InstallScript ビルド レポートに含まれます。</p>   |
| IOJ-1730272 | 同時接続ライセンスをご利用の場合、InstallShield Standalone Build の元のリリースをサービス パック リリースにアップグレードした後、Server.ini に適切なサーバー値が含まれるようになりました。  |
| IOJ-1737768 | InstallShield 2015 の ReportViewer 2012 前提条件に関する更新済みの依存関係ファイルが含まれています (Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 System CLR Types (x86).prq)。ReportViewer 2012 を選択すると、依存する .prq が検出され、正しくダウンロードが行われます。  |
| IOJ-1737004 |  <p><b>プロジェクト</b>・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本の MSI</li> <li>• InstallScript MSI</li> </ul> <p>Microsoft .NET 4.6 が搭載されたマシン上で .NET インストーラー クラスを含むセットアップをビルドした場合、今回より、インストーラー クラスが正しくインストールされます。</p> |

# InstallShield 2015

InstallShield 2015 では、次の問題が解決されています：

| 問題番号          | 問題の概要   |
|---------------|---|
| IOA-000059322 |  <p>プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>アドバンスド UI</li><li>基本の MSI</li><li>InstallScript MSI</li><li>スイート/アドバンスド UI</li></ul> <p>インストールが 64 ビット システム上で SysWow64 フォルダ内にパッケージをキャッシュする場合、今回より、適切なシステムフォルダからそれが実行されます。以前、Windows の一部の 64 ビット バージョンでは、インストールが System32 フォルダからキャッシュされたパッケージを実行しようとしていました。</p>  |
| IOA-000064222 |  <p>プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>基本の MSI</li><li>InstallScript MSI</li><li>マージ モジュール</li></ul> <p>[リリース]ビューの[ビルド]タブにある“データの言語”設定を使って、各コンポーネントの言語に基づいてリリースにいくつかのコンポーネントを含み、その他のコンポーネントを除外すると、InstallShield は今回より、ビルド出力で適切なコンポーネントを含める、または除外します。以前、InstallShield はコンポーネントを除外すべきかどうかにかかわらず、すべてのコンポーネントを含みました。この問題を回避するため、リリースウィザードを使って除外する必要があるコンポーネントの言語を指定することができました。</p> |

**問題番号****問題の概要****IOA-000065291**

StrLength ヘルプ トピックは修正されています。このヘルプ トピックには、InstallScript 関数 StrLength が Unicode (UTF-16) 文字列の null ターミネータの前のコード ユニットの数を返すことが記述されています。また、この関数の使用方法についての詳細も更新されています。以前、ヘルプ トピックには、関数が文字列のバイト数を返すと示されていました。

「InstallShield 2010 以前のプロジェクトをアップグレードする」ヘルプ トピックの「InstallScript コードにおける Unicode サポートを確認」章が、InstallShield 2011 で追加された変更に基づいて改訂されています。InstallShield 2010 以前のプロジェクトと InstallShield 2011 以降のプロジェクトで、StrLength の戻り値が異なることが説明されています。

**IOA-000066977**

「UseDLL の例」および「UnUseDLL の例」ヘルプ トピックのサンプル コードが改訂されています。コードの #define 行に誤って記載されたセミコロンが削除されました。さらに、このコードは InstallShield に同梱されていて Samples フォルダーにインストールされる MyDLL.dll ファイルと共に使用できないため、MyDLL.dll への参照が異なるファイル名に変更されました。

**IOA-000073666**

「Setup.exe および Update.exe コマンドライン パラメーター」ヘルプ トピックの /uninst コマンドライン パラメーターの説明がより詳細になりました。このパラメーターは、InstallShield の以前のバージョンとの互換性を目的に提供されていることが説明されています。また、InstallScript MSI インストールでは、/uninst パラメーターがインストールをログを処理して、スクリプトを使って作成およびログ記録された任意のリソースを削除する InstallScript エンジンのアンインストール動作を呼び出すことがないこと、ならびにこの動作が /removeonly オプションによって呼び出されることも説明されています。

**IOA-000073755**

**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- *基本の MSI*
- *InstallScript*
- *InstallScript MSI*

DVD または CD などのメディア上にある Setup.exe ファイルに /runfromtemp コマンドライン パラメーターを渡すとき、インストールにソース メディアからコピーするように構成された InstallShield 前提条件が含まれている場合、「インストール要件 MyPrerequisite のファイルが見つかりませんでした。」などのエラーと共に前提条件のインストールが失敗することがなくなりました。

**問題番号****問題の概要****IOA-000074858**

ListAddList ヘルプ トピックで listAdd パラメーターについての記述が改訂され、InstallScript 関数 ListAddList のこのパラメーターの動作がより明確に説明されています。このパラメーターは目的のリストに追加する要素を含むことも記述されています。ListAddList は、すべての要素（このリストの現在の要素から、このリストの最後の要素）を ListDest パラメーターが識別する目的のリストに追加します。

**IOA-000075571**

**プロジェクト**・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用しません。

COM サーバーを WINSYSDIR64 (64 ビット System32 フォルダー) にインストールするように構成されたコンポーネントの “64 ビット コンポーネント” および “自己登録” 設定に [はい] を選択したとき、今回より COM サーバーが正しく登録されます。以前、WINSYSDIR64 をインストール先とする COM サーバーの自己登録が失敗しました。

**IOA-000075693**

Reg-Free COM ウィザードは、今回より 「Reg-Free COM マニフェスト ファイルの作成を試みた際に、予期しないエラーが発生しました。」エラーを表示せずに、有効なマニフェスト ファイルを作成します。以前は、一部の状況下でウィザードによるマニフェスト ファイルの作成が失敗しました。

**IOA-000076709**

**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート / アドバンスト UI

進行状況ウィザード ページでビルボードの表示中にアドバンスト UI またはスイート / アドバンスト UI インストール内の .exe パッケージが実行しているとき、ウィザード UI が .exe パッケージの終了までロックされることがなくなりました。また、ウィザード UI が次のビルボードに切り替わるようになりました。

**問題番号****問題の概要**

IOA-000076793



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

ウィザード ページまたは 2 番目のウィンドウでイメージ ボタンコントロールのリソースとして透明背景を持つ .png ファイルを使用すると、今回より透明領域が正しく表示されます。以前、透明部分が白色領域として表示されました。

IOA-000081819



**プロジェクト**・この情報は、InstallScript MSI プロジェクトに適用しません。

PreparingToInstall ダイアログが表示されたあと、圧縮された複数言語 InstallScript MSI インストールが予期せず終了する問題が解決しました。以前、インストールが失敗しました。これは、InstallScript UI スタイル (埋め込み UI ハンドラーとして InstallScript エンジンを使用する) が新しいスタイルである InstallScript MSI プロジェクトに適用します。

IOA-000082218



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

アドバンスド UI または スイート/アドバンスド UI インストールが 2 言語より多く言語をサポートする場合、InstallationLanguage ウィザード ページに表示される言語一覧に空白またはドロップダウン一覧の終りに余分な空白が表示されることがなくなりました。

IOA-000082572



**プロジェクト**・この情報は、トランスフォーム プロジェクトに適用しません。

単一の .cab ファイルに圧縮された 150 MB から 2 GB サイズのファイルを含むトランスフォーム プロジェクトを作成するとき、InstallShield は .cab ファイルを正しく作成します。以前、.cab ファイルが正しく作成されず、実行時に .cab ファイルでファイルが見つからないことを通知するエラー 1334 が発生しました。

IOA-000082927



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

コマンドライン パラメーターを使用して .NET Framework ユーティリティの Regasm.exe および InstallUtilLib.dll の 32 ビットの場所を指定した場合、InstallShield は今回より .NET インストーラー クラスと COM Interop を含むリリースのビルド時にこれらのユーティリティの 64 ビットバージョンを使用します。以前は、Regasm.exe が見つからなかったことを示すビルド エラー -6209 が発生しました。

IOA-000083152



プロジェクト・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用しません。

InstallScript プロジェクト内のコンポーネントの “.NET アセンブリ” 設定の値が [ローカル アセンブリ] で、そのインストールを .NET Framework 4.0 以降が搭載されているターゲットシステム上で実行したとき、.NET Framework 3.5 を要求するプロンプトがトリガされる問題が解決されました。

IOA-000084393



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

InstallShield 前提条件のコマンドラインに %temp% などの環境変数リファレンスが含まれている場合で、その前提条件をアドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI プロジェクトにインポートすると、InstallShield は今回より、正しい構文を使ってその前提条件のコマンドラインをインポートします。これによって、実行時に適切なコマンドラインが前提条件パッケージに渡されます。InstallShield は今回より、アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI プロジェクト内のパッケージに [%temp] などの構文を使用します。

以前、このような前提条件をアドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI プロジェクトにインポートした後、パッケージのコマンドラインを手動で編集して、環境変数への参照ではなく、角括弧で囲まれたプロパティ ([TempFolder] など) を含める必要がありました。

IOA-000124593



**プロジェクト**・この情報は、*InstallScript MSI* プロジェクトに適用しません。

InstallScript MSI インストールにビルボードが含まれていて、STATUSBBRD 進行状況ダイアログを使用する場合、今回よりターゲット システムにファイルが転送されている間は続けてビルボードが表示されます。以前、ファイル転送の途中で、インストールが進行状況ダイアログ上にビルボードの代わりに空白領域を表示しました。

IOC-000078542

InstallShield ヘルプ ライブラリに、Windows Installer がシステム検索のプロパティにレジストリ エントリの種類を保管する方法について説明する新しいトピック「実行時にレジストリを検索する場合の特別考慮」が追加されました。

IOC-000090555

InstallShield ヘルプ ライブラリの「XCOPYFile」ヘルプ トピックに、szSrcFile パラメーターの有効な URL を指定できる機能についての詳細が追加されました。

**問題番号****問題の概要**

IOC-000090932



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

プロジェクトの中間フォルダーにあるファイルが読み取り専用の場合、今回よりビルドが -7348 ビルド エラーを出して失敗します。エラー メッセージには、保存できなかったファイルが表示されます。以前、ビルドはエラー コード 0 で失敗し、エラーメッセージは表示されませんでした。

IOJ-1660097



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール
- ・ トランスフォーム

[テキスト ファイルの変更]ビューで構成されたテキスト ファイルの変更を含むコンポーネントを削除すると、InstallShield は今回より、プロジェクトから対応する ISSearchReplace および ISSearchReplaceSet エントリを削除します。

以前、InstallShield は ISSearchReplace エントリをプロジェクト内に残し、それを NoISSearchReplaceSet と呼ばれる存在しないテキスト変更の置換セットに関連付けました。このため、同じテキスト変更名を使って新しいテキスト ファイルの変更を構成することができ、[ダイレクト エディター]ビューを使ってプロジェクトから ISSearchReplace エントリを削除する必要がありました。

IOJ-1666040

InstallShield I D E を Windows X P または Windows S e r v e r 2003 にインストールしようとする、今回よりマシン上に Windows V i s t a 以降が必要であることを通知するエラーが表示されます。

IOJ-1660222

「リリースの配布用の仮想マシン設定を共有する」ヘルプトピックで、InstallShield と共にインストールされる VMConfigurations.xml ファイルのパスが訂正されました。ファイルは InstallShield Program ファイル フォルダー ¥Support¥0409 ディレクトリ、または Program ファイル フォルダー ¥Support¥0411 ディレクトリにあります。

## 問題番号

## 問題の概要

IOJ-1660957



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

日本語バージョンの IDS\_PREVENT\_DOWNGRADE\_EXIT 文字列エントリの値全体が、実行時に正しく表示されるようになりました。以前、文字列エントリの一部が切り詰めて表示されました。

IOJ-1661825

日本語版の ISCmdBld.exe を使ってコマンドラインからビルドを行ったとき、今回よりコマンド プロンプト ウィンドウおよびビルド ログ ファイルに、日本語の文字が正しく表示されます。

IOJ-1662504

文字列「Welcome to the InstallShield Wizard for [ProductName]」の正しい翻訳が、デフォルトのイタリア語実行時文字列に組み込まれています。以前、イタリア語の文字列は「InstallShield Wizard for [ProductName]」の翻訳でした。

IOJ-1663112

MSBuild の .isproj ファイルを使ってパス変数の値をオーバーライドすると、MSBuild は今回よりオーバーライドされたパス変数値を参照する別のパス変数内の新しい値を使用します。以前、MSBuild を使ったビルドが失敗することがありました。たとえば、プロジェクト内のファイルの“リンク先”設定が、オーバーライドされたパス変数を参照する値を持つパス変数である場合、ビルドが失敗しました。

IOJ-1664029



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

Setup.exe をコマンドラインから起動するときに /? をに渡すと表示されるヘルプ テキストで、サイレント モードのサンプル (/s /v/qn) の後にピリオドが表示されることがなくなりました。

IOJ-1664860

「再配布可能ファイルの出荷」ヘルプ トピックには、InstallShield 使用許諾契約に基づいて使用可能な再配布可能ファイルのリストに、今回より SetupPrereq.exe ファイルが含まれています。

| 問題番号        | 問題の概要   |
|-------------|---|
| IOJ-1665546 | <p>スタンドアロン ビルドは今回より、ビルド時に見つからなかった期限切れのマージ モジュール依存関係についてのエラーを抑制します。このエラーの制御は、完全版の InstallShield のビルドと一致します。</p>  |
| IOJ-1666524 | <p> <b>プロジェクト</b>・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アドバンスト UI</li> <li>・ スイート / アドバンスト UI</li> </ul> <p>スイート / アドバンスト UI インストールは、今回より .exe アクションからの正の終了コードを正しく処理します。</p>   |
| IOJ-1667107 | <p> <b>プロジェクト</b>・この情報は、トランスフォーム プロジェクトに適用します。</p> <p>トランスフォーム オープン ウィザードの [追加トランスフォーム] パネルを使って、プロジェクトに複数のトランスフォームを追加するとき、今回よりこのウィザード パネル上でトランスフォームが正しく表示されます。以前は、このパネルに複数のトランスフォームを表示することを阻止する問題がありました。</p>   |
| IOJ-1667245 | <p>[ダイレクト エディター] ビューで、特定のテーブルから水平スクロールバーが不足している問題が解決しました。</p>   |
| IOJ-1667248 | <p> <b>プロジェクト</b>・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本の MSI</li> <li>・ InstallScript MSI</li> </ul> <p>InstallScript カスタム アクションが InstallScript 関数 CopyFile を呼び出して、ターゲット システム上にある既存のロックされた ファイルを上書きしようとしたとき、今回より、関数がエラーコードを返します。以前は、関数が返らなかったために、インストーラーが応答なしの状態となりました。</p> |

## 問題番号

## 問題の概要

IOJ-1699692

InstallShield ヘルプ ライブラリの SelectDir および SelectDirEx ヘルプ トピックには、今回より Windows が SelectDir および SelectDirEx ダイアログ ボックスを表示することが説明されています。つまり、インストールでこれらのダイアログ上にあるテキストを変更することはできません。Windows はオペレーティングシステムの言語を使ってボタン テキストを表示します。

IOJ-1700707



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ *アドバンスド UI*
- ・ *InstallScript MSI*

ウィザード インターフェイスに “BS\_MULTILINE” 設定が [True] のチェックボックス コントロールが含まれている場合、コントロールの “テキスト スタイル” 設定を設定すると、コントロールのテキストは必要に応じて複数行に折り返されます。以前、テキストが 2 行目以降を折り返しませんでした。

ウィザード インターフェイスに “BS\_MULTILINE” 設定が [True] のチェックボックス コントロールが含まれている場合、コントロールの “テキスト スタイル” 設定を設定すると、コントロールのテキストは必要に応じて複数行に折り返されます。以前、テキストが 2 行目以降を折り返しませんでした。

IOJ-1700869



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ *基本の MSI*
- ・ *DIM*
- ・ *InstallScript*
- ・ *InstallScript MSI*
- ・ *InstallScript オブジェクト*
- ・ *マージ モジュール*

GAC 内の .NET 4.0 に依存するコンポーネントの “ビルド時に .NET をスキャン” 設定で依存関係オプションを選択すると、今回より InstallShield がビルド時にアセンブリを見つけます。以前、InstallShield はアセンブリを見つけられず、依存関係ファイルまたは依存関係の 1 つが見つからなかったことを通知するビルド警告 -6248 が表示されました。

IOJ-1718441



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール
- ・ トランスフォーム

プロジェクト内の 1 つのフォルダーにアクセス許可を構成して、2 番目のフォルダーのアクセス許可の構成をキャンセルしたとき、最初のフォルダーのアクセス許可が誤ってプロジェクトから削除される問題が解決されました。以前、一部の状況下でアクセス許可が削除されることがありました。

IOJ-1719333



プロジェクト・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用しません。

[XML ファイルの変更] ビューを使って XML ファイルに実行時の変更を構成したとき、アンインストールおよびアンインストール時に %TEMP% フォルダー内の関連する一時サポート ファイルが残されたままとなる問題が解決されました。

IOJ-1721109



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ アドバンスド UI
- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ スイート / アドバンスド UI

次の InstallShield 前提条件に構成された条件が訂正されています：

- ・ Microsoft Visual C++ 2010 再配布可能パッケージ (x86)
- ・ Microsoft Visual C++ 2010 再配布可能パッケージ (x64)

Windows 8 および Windows Server 2012 以降は、これらのパッケージをサポートしません。従って今回より、前提条件はこれらのプラットフォームをターゲットにしません。

IOJ-1721241



**プロジェクト**・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用しません。

一部の実行時の言語について、ユーザー インターフェイス上で表示される翻訳されたエラー メッセージから、エラー コードが不足している問題が解決されました。以前、実行時の文字列にはエラー コードが 2 つの中かっこ ({{}}) で囲まれていました。中かっこに囲まれたテキストは、ログ ファイルでのみ表示され、UI では表示されませんでした。

IOJ-1722103



**プロジェクト**・この情報は、InstallScript MSI プロジェクトに適用しません。

ISSelfReg テーブルの CmdLine 列の値が次のように設定されている場合、ISSelfRegisterCosting カスタム アクションが特定の実行可能ファイルで失敗する問題が解決されました：

```
/ServiceNoControlManager|/UnregServerX
```

IOJ-1722201



**プロジェクト**・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用しません。

次の条件が当てはまるとき、Windows Fonts フォルダーにフォントが適切にインストールされます：

- InstallScript インストールで Windows Fonts フォルダーにフォントをインストールするように構成された同じコンポーネントを含む 2 つの機能が含まれている。2 つ目の機能のインストールが選択されているが、1 つ目の機能は選択されていない。
- Microsoft セキュリティの更新 KB2993651 がターゲット システムに適用されている。

以前、この状況下ではフォントがインストールされず、ファイルエラー（「システムで指定されたファイルが見つかりません。(0x2)」）が表示されました。

**問題番号****問題の概要****IOJ-1722765**

**プロジェクト**・この情報は、*InstallScript* プロジェクトに適用しません。

インストールが *InstallScript* 関数 *PlaceWindow* および *SizeWindow* を *MMEDIA.AVI* 定数と共に呼び出すとき、今回よりステータスダイアログのすべてが画面の中央に表示されます。以前、Windows 7 ベースのシステムでは、ダイアログの一部が切り落とされ、また画面の中央に表示されませんでした。

**IOJ-1723383、IOJ-1725814**

**プロジェクト**・この情報は、*InstallScript Object* プロジェクトに適用しません。

*InstallShield* は、今回より *InstallScript* オブジェクト プロジェクトを正しくビルドします。以前、この種類のプロジェクトをビルド中に *InstallShield* がクラッシュする問題がありました。

**IOJ-1723476**

*InstallShield* 前提条件エディターで [含めるファイル] タブにあるファイルのパスを変更したとき、前提条件エディターが誤ってパス変数の後に余分な円記号を追加する問題が解決されました。

**IOJ-1723693**

**プロジェクト**・この情報は、*InstallScript MSI* プロジェクトに適用しません。

*InstallScript MSI* インストールで、ベース インストールの実行前にレジストリ キーが存在しないターゲット システム上で、*InstallScript* コードを使ってメジャー アップグレードの最中にレジストリの 64 ビット領域にキーを作成するとき、メジャー アップグレードがエラーメッセージ「セットアップ起動プログラムが停止しました」を表示することがなくなりました。

**IOJ-1723921**

**プロジェクト**・この情報は、*InstallScript* プロジェクトに適用しません。

プロジェクトから親フォルダーを削除すると、そのサブフォルダーも削除されるようになりました。以前はプロジェクトにサブフォルダーが残り、それらが実行時にターゲット システムにインストールされました。

**問題番号****問題の概要****IOJ-1724095**

**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

プロジェクト内のパッケージのファイル名に 63 文字以上が含まれている場合、ビルド エラー -7239 が発生する問題が解決されました。

**IOJ-1724624**

**プロジェクト**・この情報は、スイート/アドバンスド UI プロジェクトに適用します。

スイート/アドバンスド UI プロジェクトにパッケージとして InstallShield プロジェクト (.ism) が含まれているとき、コマンドライン ビルド ツール ISCmdBld.exe は今回より、このプロジェクトのリリースを正しくビルドします。以前はビルドが突然停止して、出力が何も生成されませんでした。

**IOJ-1725037**

次の InstallShield 前提条件は、今回より Windows 7 ターゲット システム上で実行します。

- ・ Microsoft SQL Server 2012 Express SP1 (x64)
- ・ Microsoft SQL Server 2012 Express SP1 LocalDB (x64)
- ・ Microsoft SQL Server 2012 Express SP1 Management Objects (x64)
- ・ Microsoft SQL Server 2012 Express SP1 System CLR Types (x64)

以前、これらの InstallShield 前提条件は Windows 7 SP1 以降を必要としました。

**IOJ-1725162**

InstallShield ヘルプ ライブラリの「Setup.exe 戻り値および実行時のエラー (アドバンスド UI およびスイート/アドバンスド UI)」には、以前記述されていなかった多くの終了コードとエラーコードについてのトラブルシューティングのヒントが含まれています。

**IOJ-1726094**

InstallShield Professional Edition の [バージョン情報] ダイアログ ボックス ([ヘルプ] メニューで [バージョン情報] をクリックすると表示される) に、誤って 「with Virtualization Pack」 文字列が表示されることがなくなりました。

**問題番号****問題の概要****IOJ-1726115**

InstallShield ヘルプ ライブラリの索引および検索の問題が解決されました。[索引] タブで Windows Instaler ヘルプのエントリが正しく表示されます。また、[検索] タブに「ISWiProject オブジェクト」などの検索結果が再び正しく表示されるようになりました。

**IOJ-1726120**

**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- *InstallScript*
- *InstallScript MSI*

青いダイアログ スキンを使用するインストールで、ステータスダイアログの左側のイメージが表示されない問題が解決されました。

**IOJ-1726328**

ビルトイン ポルトガル語の実行時言語の文字列に余分な引用符が含まれている問題が解決されました。

**IOJ-1727345**

**プロジェクト**・この情報は、スイート/アドバンスド UI プロジェクトに適用します。

スイート/アドバンスド UI インストールのマネージコード カスタム アクションがゼロ以外の値を返した場合、今回よりインストールが失敗します。以前は、インストールがゼロ以外の値を無視しました。

**IOJ-1727444**

**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- *InstallScript*
- *InstallScript MSI*

Windows 7 ベースのターゲット システム上で、実行時ダイアログのチェックボックスが無効として灰色表示される問題が解決しました。

## 問題番号

## 問題の概要

IOJ-1727555



**プロジェクト**・この情報は、*InstallScript* プロジェクトに適用しません。

InstallScript システム 変数 PROGRAMFILES64 は、今回より、64 ビット ターゲット システム上での実行時に正しい場所に解決されます。以前、システム変数を含むベース インストールが InstallShield 2014 以前で作成されている場合に、新しいバージョンが InstallShield 2014 SP1 で作成されると、アップデート中に PROGRAMFILES64 が 32 ビットの場所に解決しました。

IOJ-1728369



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ *基本の MSI*、
- ・ *InstallScript*
- ・ *InstallScript MSI*
- ・ *スイート/アドバンスト UI*

ビルド時にリリースを配布する仮想マシン上の場所として無効なパスを指定すると、InstallShield が応答しなくなる問題が解決しました。

IOJ-1728459



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ *基本の MSI*、
- ・ *InstallScript*
- ・ *InstallScript MSI*
- ・ *スイート/アドバンスト UI*

ビルド時にリリースを VMware Workstation に配布するように構成したとき、ビルド ログに次のエラーが含まれることがなくなりました：

GetImages FindItems VIX\_FIND\_REGISTERED\_VMS VIX エラー 6

**問題番号****問題の概要**

IOJ-1728706



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ *基本の MSI*、
- ・ *InstallScript*
- ・ *InstallScript MSI*
- ・ *スイート / アドバンスド UI*

[仮想マシンの構成を編集] ダイアログ ボックスの代わりに、[リリース] ビューにあるリリースの [イベント] タブ上にある [仮想マシン] 領域で “構成” 設定の下にある “ユーザー名” および “パスワード” サブ設定に認証情報を入力すると、今回より InstallShield はリリースを配布するために仮想マシンに接続する際、これらの認証情報を使用します。

IOJ-1729373



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ *基本の MSI*、
- ・ *InstallScript*
- ・ *InstallScript MSI*

製品名にアンパサンド (&) を使用すると、今回より、そのアンパサンドが小さい初期化ダイアログに製品名の一部として含まれます。以前は省略されました。

IOJ-1729395



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません：

- ・ *基本の MSI*
- ・ *DIM*
- ・ *InstallScript*
- ・ *InstallScript MSI*

SQL スクリプト エラー処理のサポートが、実行時に TRY-CATCH ステートメントの CATCH ブロックで発生するエラーを無視する問題が解決されました。

**問題番号****問題の概要**

IOJ-1729415



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ *基本の MSI*
- ・ *DIM*
- ・ *InstallScript MSI*

プロジェクトの [SQL スクリプト] ビューに含まれる SQL スクリプトに 1 つ以上の PRINT ステートメントが含まれる場合、今回よりすべての PRINT ステートメントが ログ ファイルに書き込まれます。以前は、最初の PRNT ステートメントのみがログ記録されました。

IOJ-1729563



**プロジェクト**・この情報は、*InstallScript MSI* プロジェクトに適用しません。

IDS\_ERROR\_27503 および IDS\_SQLLOGIN\_TITLE 文字列エントリの韓国語の翻訳が修正されました。

IOJ-1729622



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ *アドバンスト UI*
- ・ *スイート/アドバンスト UI*

アドバンスト UI およびスイート/アドバンスト UI プロジェクトは今回より、Visual Studio ソリューション内でソース コントロールを適切にバインドします。以前は、バインド サポートが使用できませんでした。プロジェクトがソース管理にチェックインされるたびに、ソース管理のエラーが表示されました。

## 問題番号

## 問題の概要

IOJ-1730277



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

プロジェクト内のパッケージをアドバンスド UI または スイート / アドバンスド UI プロジェクト内の機能と関連付けるために、手作業でプロジェクト ファイル (.issuite) の XML を修正してから、そのプロジェクトをアップグレードした場合、InstallShield がビルド時にクラッシュする問題が解決されました。

IOJ-1730288



**プロジェクト**・この情報は、InstallScript MSI プロジェクトに適用しません。

マージ モジュール ホルダー オブジェクトを含む InstallScript インストールの OnFirstUIAfter イベントを中止すると Setup.exe がクラッシュする問題が解決されました。

IOJ-1730620



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用しません:

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

アドバンスド UI、スイート / アドバンスド UI プロジェクトで 1 つめのバージョンを作成してから、[一般情報] ビューの [プログラムの追加と削除] 領域で “変更ボタンを無効にする” 設定または “削除ボタンを無効にする” 設定に異なる値を持つアップグレードを作成した場合、今回よりインストールは、アップグレードで構成されたとおりに製品の [プログラムの追加と削除] エントリをアップデートします。

## 既知の問題

既知の問題一覧は、[https://flexeracomunity.force.com/customer/articles/en\\_US/INFO/InstallShield-2015-Known-Issues](https://flexeracomunity.force.com/customer/articles/en_US/INFO/InstallShield-2015-Known-Issues) をご覧ください。

# システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム（ランタイム環境）の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム（オーサリング環境）の要件が説明されています。

## InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

| 項目            | 説明   |
|---------------|--|
| プロセッサ         | Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)  |
| RAM           | 256 MB の RAM (512 MB 推奨)   |
| ハードディスク       | 500 MB 空き領域  |
| ディスプレイ        | 1024 x 768 (XGA) 以上の解像度  |
| オペレーティング システム | <ul style="list-style-type: none"><li>Windows Vista</li><li>Windows Server 2008</li><li>Windows 7</li><li>Windows Server 2008 R2</li><li>Windows 8</li><li>Windows Server 2012</li><li>Windows 8.1</li><li>Windows Server 2012 R2</li><li>Windows 10</li></ul> |
| 権限            | システムの管理者権限   |
| マウス           | Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス   |

| 項目   | 説明  |
|--|---|
| <b>InstallShield と Visual Studio との統合（オプション）</b> | <p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Visual Studio 2008</li><li>• Visual Studio 2010</li><li>• Visual Studio 2012</li><li>• Visual Studio 2013</li><li>• Visual Studio 2015</li></ul> <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Professional</li><li>• Premium</li><li>• Ultimate</li></ul> |

---

# ターゲット システムの要件



プロジェクト・スイート (アドバンスド Ui、およびスイート / アドバンスド UI プロジェクト タイプ) 以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最低バージョンです。スイートの場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最低バージョンです。

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最低要件を満たさなくてはなりません：

- Windows XP SP3
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

# 法的情報

## 著作権情報

Copyright © 2017 Flexera Software LLC. All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software LLC およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software LLC からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software LLC によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software LLC が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本技術およびそれに関する情報のすべての複製は、Flexera Software LLC より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

## 知的財産

フレクセラ・ソフトウェアが所有する商標および特許の一覧は、<http://www.flexerasoftware.com/intellectual-property> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

## (米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。